

使用テキスト

配本年度

『生涯スポーツと運動の科学』森谷 梨 監修(市村出版)

2010 年度～2016 年度

『新版 生涯スポーツと運動の科学』上杉 尹宏、晴山 紫恵子、川初 清典監修(市村出版) 2017 年度～

科目概要

本科目では、「健康」や「スポーツ」を科学的な視点で捉え、体力や運動・健康についての基礎知識を学ぶ。それにより、自身の健康や運動に興味関心を持ち、生涯にわたって健康的で活力ある生活を送ることのできる能力を身につけることを目標とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 体力の定義と構造について理解する。
2. 運動を行なうことにより生じる生体の変化について、理解を深める。
3. 身体運動の仕組みについて理解する。
4. 成長・老化による身体の変化について知り、各年代における運動の必要性と効果について理解する。
5. 様々な生涯スポーツの理論と実践について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 体力と健康について
2. 脳・神経系、筋・骨格系と運動
3. 呼吸・循環系と運動
4. 成長・老化と生涯スポーツ
5. 運動と休養
6. リハビリテーションスポーツ
7. 生涯スポーツの理論と実践方法

参考文献

『スポーツの科学』日本学術協力財団編著(日学新書)

『入門運動生理学 第3版』勝田 茂 編著、和田正信・松永 智 著(杏林書院)

『トレーニングの科学的基礎 改訂増補版』宮下充正 著(ブックハウス HD)

評価基準

■ レポート評価

テーマに関連した内容について、テキストを熟読し、学習の要点を正しく理解できているか。また、その他の参考文献や資料も大いに利用し、エビデンスを基に論じられているか。

■ 科目終了試験評価

出題の主旨を理解し、キーワードをとらえて正確に説明できているか。

具体例として自らの経験を述べるのは可とするが、持論の展開にならないよう注意する。あくまでも客観的事実から導きだされた解答となるようにする。

『Good Reading, Better Grammar』(成美堂)

2020年度～

科目概要

各Chapterの「Reading Passage (文章読解)」と「Focus Grammar (文法)」をとおして、英文の基礎的な読み方と作り方を学習します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基礎的な読解能力を身に付ける。
2. 基礎的な文法をマスターする。
3. 簡単な英文を書ける能力を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 英語の基礎的な読解能力。
2. 速読による文脈からの内容理解。
3. 基礎文法の習得。
4. 文法・慣用表現の英作文における応用力。

参考文献

①紙辞書、電子辞書を問いませんが、英和辞書をかならず使って解答してください。

評価基準

■ レポート評価

1. わからない単語や表現は辞書でかならず確認して、レポートを作成してください。スペルミスやケアレスミス、単純な文法ミスが多いものは不合格になります。
2. 他レポートの丸写しなど、不正は一切認めません(丸写しは不自然な表現やスペルミスなどで簡単に発覚します)。その場合、採点はしません。

『Good Reading, Better Grammar』(成美堂)

2020年度～

科目概要

各Chapterの「Reading Passage (文章読解)」と「Focus Grammar (文法)」をとおして、英文の基礎的な読み方と作り方を学習します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基礎的な読解能力を身に付ける。
2. 基礎的な文法をマスターする。
3. 簡単な英文を書ける能力を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 英語の基礎的な読解能力。
2. 速読による文脈からの内容理解。
3. 基礎文法の習得。
4. 文法・慣用表現の英作文における応用力。

参考文献

①紙辞書、電子辞書を問いませんが、英和辞書をかならず使って解答してください。

評価基準

■ レポート評価

1. わからない単語や表現は辞書でかならず確認して、レポートを作成してください。スペルミスやケアレスミス、単純な文法ミスが多いものは不合格になります。
2. 他レポートの丸写しなど、不正は一切認めません(丸写しは不自然な表現やスペルミスなどで簡単に発覚します)。その場合、採点はしません。

使用テキスト

配本年度

『Good Reading, Better Grammar』(成美堂)

2020年度～

科目概要

各Chapterの「Reading Passage (文章読解)」と「Focus Grammar (文法)」をとおして、英文の基礎的な読み方と作り方を学習します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基礎的な読解能力を身に付ける。
2. 基礎的な文法をマスターする。
3. 簡単な英文を書ける能力を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 英語の基礎的な読解能力。
2. 速読による文脈からの内容理解。
3. 基礎文法の習得。
4. 文法・慣用表現の英作文における応用力。

参考文献

①紙辞書、電子辞書を問いませんが、英和辞書をかならず使って解答してください。

評価基準

■ レポート評価

1. わからない単語や表現は辞書でかならず確認して、レポートを作成してください。スペルミスやケアレスミス、単純な文法ミスが多いものは不合格になります。
2. 他レポートの丸写しなど、不正は一切認めません(丸写しは不自然な表現やスペルミスなどで簡単に発覚します)。その場合、採点はしません。

『Good Reading, Better Grammar』(成美堂)

2020年度～

科目概要

各Chapterの「Reading Passage (文章読解)」と「Focus Grammar (文法)」をとおして、英文の基礎的な読み方と作り方を学習します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基礎的な読解能力を身に付ける。
2. 基礎的な文法をマスターする。
3. 簡単な英文を書ける能力を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 英語の基礎的な読解能力。
2. 速読による文脈からの内容理解。
3. 基礎文法の習得。
4. 文法・慣用表現の英作文における応用力。

参考文献

①紙辞書、電子辞書を問いませんが、英和辞書をかならず使って解答してください。

評価基準

■ レポート評価

1. わからない単語や表現は辞書でかならず確認して、レポートを作成してください。スペルミスやケアレスミス、単純な文法ミスが多いものは不合格になります。
2. 他レポートの丸写しなど、不正は一切認めません(丸写しは不自然な表現やスペルミスなどで簡単に発覚します)。その場合、採点はしません。

使用テキスト

配本年度

『(2013～2019) 事例でわかる 情報モラル』実教出版株式会社

2013 年度～2020 年度

『2020 事例でわかる 情報モラル』実教出版株式会社

2021 年度～

科目概要

この科目は、情報倫理に関したところを中心に学習する。情報化社会(特にネット社会)の中で非常に問題になっている影の部分の部分を認識し理解することで、みなさんがインターネットを安全に活用出来るようになることが目標である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ネット社会のモラルやマナーを理解する。
2. 個人情報の取り扱いについて認識を深める。
3. ネット社会での生活と危険性を認識する。
4. 知的財産について認識を深める。
5. 情報セキュリティとネット被害について認識を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. ネットワーク社会でのモラルとマナーについて
2. 個人情報や知的財産について
3. ネットワーク社会での生活と危険性について
4. 情報セキュリティとネットワークの被害について

参考文献

インターネットでの情報検索で得られる情報があります。ただし、間違った情報もありますので、複数のサイトを参考にしてください。

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、テキストを参考にして、あなたが実際に生活している情報化社会の中で、見たり、聞いたり、体験したりしたことを出来るだけレポートに反映すること。

不正レポート(参考資料のコピーや Web ページのコピー等)は評価しない。

使用テキスト

配本年度

『キーワードで学ぶ最新情報トピックス(2013～2019)』

監修:久野靖・辰巳丈夫・佐藤義弘(日経BPソフトプレス) 2013年度～2020年度

『キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2020』

監修:久野靖・辰巳丈夫・佐藤義弘(日経BPソフトプレス) 2021年度～

科目概要

この科目は、コンピュータとネットワーク技術の基礎から情報の活用におけるルールやマナー(情報倫理)まで、情報化社会の中で生活するための基礎的な知識を身に付けることが目標である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. コンピュータとソフトウェアの基礎的な仕組みを学ぶ。
2. インターネットの基礎的な仕組みと利用方法を学ぶ。
3. メディアとその表現について学ぶ。
4. ネットの脅威とセキュリティについての認識を深める。
5. 情報化社会のルールとマナーについての認識を深める。
6. 情報化社会の現状とIT企業について再認識する。

■ 科目の学習要点事項

1. コンピュータとソフトウェアの基礎的な仕組みについて
2. インターネットの基礎的な仕組みと利用について
3. ネット社会のセキュリティと情報化社会でのルールとマナーについて

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、テキストを参考にして、あなたが実際に生活している情報化社会の中で、見たり、聞いたり、体験したりしたことを出来るだけレポートに反映すること。

不正レポート(参考資料のコピーやWebページのコピー等)は評価しない。

使用テキスト

配本年度

『2018～2019 事例でわかる 情報モラル』実教出版株式会社

2019 年度～2020 年度

『2020 事例でわかる 情報モラル』実教出版株式会社

2021 年度～

科目概要

この科目は、情報倫理(モラル)に関したところを中心に学習する。情報化社会(特にインターネット社会)の中で非常に問題になっている影の部分の部分を認識し理解することで、みなさんがインターネット社会を安全に生き抜き、また、情報を上手に活用できることが目標である。スクーリングにおいては、情報倫理だけでなく、情報の活用として、Wordを使用して情報の表現を体験する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ネット社会のモラルやマナーを理解する
2. 個人情報の取扱いについて認識を深める。
3. ネット社会での生活と危険性を認識する。
4. 知的財産について認識を深める。
5. 情報セキュリティとネット被害について認識を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. ネットワーク社会でのモラルとマナーについて
2. 個人情報や知的財産について
3. ネットワーク社会での利便性(光)と危険性(影)について
4. 情報セキュリティとネットワークの被害について

参考文献

テキスト以外に、インターネットでの情報検索でも沢山の情報もあります。但し、間違っている情報もありますので、必ず複数のサイトを参考にしてください。

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、テキストを参考にして、あなたが実際に生活している情報化社会で体験したことや、ニュースや新聞等で取り上げられた事柄を出来るだけ反映すること。

不正レポート(参考資料のコピーや Web ページのコピー等)は評価しない。

使用テキスト

配本年度

『持続可能な社会を考える法律学入門』 井上秀典著(八千代出版)

2017 年度～

科目概要

法学1は、法学部で法律を専攻する学生と異なり、法律を専門としない学生に対して法一般に関する基本的な知識を習得させることを目的として構成されている。それゆえ、法律の専門的技術的な問題よりも、法の本質についての問題、法全般を通じて存在する法の原理や基本原則など基礎法学に関連する課題を主として取り上げていく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

「法とは何か」の命題に対し、法と道德の相違や条理などから自己の考え方を形成する。

■ 科目の学習要点事項

法の概念および性質さらに国内社会の法と国際社会の法を理解する。

参考文献

『法学入門』五十嵐清(悠々社)

『近代法の常識』伊藤正巳(有信堂)

『現代法学入門』伊藤正巳・加藤一郎 編(有斐閣)

『法とは何か』長谷部恭男(河出書房新社)

評価基準

■ レポート評価

レポートの各課題の要求する論点をよく理解しているか、理論と具体例のバランスが取れているかなどに重点をおいて評価する。

■ 科目終了試験評価

出題された問題の意図を正しく理解し、理論的に解答しているか否かを基準に採点を行う。

使用テキスト

配本年度

『持続可能な社会を考える法律学入門』 井上秀典著(八千代出版)

2019 年度～

科目概要

法学Aは、法学部で法律を専攻する学生と異なり、法律を専門としない学生に対して法一般に関する基本的な知識を習得させることを目的として構成されている。それゆえ、法律の専門的技術的な問題よりも、法の本質についての問題、法全般を通じて存在する法の原理や基本原則など基礎法学に関連する課題を主として取り上げていく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

「法とは何か」の命題に対し、法と道德の相違や条理などから自己の考え方を形成する。

■ 科目の学習要点事項

法の内容および性質さらに国内社会の法と国際社会の法を理解する。

参考文献

『法学入門』五十嵐清(悠々社)

『近代法の常識』伊藤正巳(有信堂)

『現代法学入門』伊藤正巳・加藤一郎 編(有斐閣)

『法とは何か』長谷部恭男(河出書房新社)

評価基準

■ レポート評価

レポートの各課題の要求する論点をよく理解しているか、理論と具体例のバランスが取れているかなどに重点をおいて評価する。

■ 科目終了試験評価

出題された問題の意図を正しく理解し、理論的に解答しているか否かを基準に採点を行う。

使用テキスト

配本年度

『持続可能な社会を考える法律学入門』 井上秀典著(八千代出版)

2017年度～

科目概要

法学2(日本国憲法)は日本国憲法の知識を深めることを目的とし、主として日本国憲法における平和主義および基本的人権保障を中心に学んでいく。また、憲法判断を司る裁判所についても判例を中心に学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

日本国憲法をめぐる判例を読んで、その内容を理解できることを目標とする。

■ 科目の学習要点事項

日本国憲法の基本原理の中の平和主義および人権保障について理解する。

参考文献

『憲法入門』伊藤正巳(有斐閣)

『憲法』芦部信喜(岩波書店)

『憲法判例百選1・2』(有斐閣)

評価基準

■ レポート評価

レポートの各課題の要求する論点をよく理解しているか、また理論と具体例のバランスが取れているかなどに重点をおいて評価する。

■ 科目終了試験評価

出題された問題の意図を正しく理解し、理論的に解答しているか否かを基準に採点を行う。

使用テキスト

配本年度

『持続可能な社会を考える法律学入門』 井上秀典著(八千代出版)

2017 年度～

科目概要

法学B(日本国憲法)は日本国憲法の知識を深めることを目的とし、主として日本国憲法における平和主義および基本的人権保障を中心に学んでいく。また、憲法判断を司る裁判所についても判例を中心に学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

日本国憲法をめぐる判例を読んで、その内容を理解できることを目標とする。

■ 科目の学習要点事項

日本国憲法の基本原理の中の平和主義および人権保障について理解する。

参考文献

『憲法入門』伊藤正巳(有斐閣)

『憲法』芦部信喜(岩波書店)

『憲法判例百選1・2』(有斐閣)

評価基準

■ レポート評価

レポートの各課題の要求する論点をよく理解しているか、また理論と具体例のバランスが取れているかなどに重点をおいて評価する。

■ 科目終了試験評価

出題された問題の意図を正しく理解し、理論的に解答しているか否かを基準に採点を行う。

『倫理学を学ぶ人のために』宇都宮芳明・熊野純彦編(世界思想社)

2010 年度～

科目概要

私たちは生活の中で常に何かを行なって過ごしています。けれども、ただでたらしめに行なっているわけではありません。「何かのために」、或いは「何かを得たいと思って」行動しているはずですが、つまり人間の行為には「目的」が欠かせないのです。そして人間の行為は常に「善悪」という評価とも切り離せません。どのような行為もこの評価軸の中に定位されます。つまり倫理学とは、日常生活で繰り返される人間の行為が、どのような構造を持ち、どのような根拠によって評価されるのか、これらを反省的な視点から検討する学問だと言えるでしょう。もちろんそれは行為の検討にのみ留まるものではありません。行為者が社会共同体の中で行為する以上、社会共同体に対する視点も欠かすことはできないからです。

本授業では、倫理学の成立の場である古代から現代に至るまで、さまざまな思想に触れることで、改めて人間の行為の意味を考察していきたいと思えます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 倫理学の基本的な思考方法を体得する。
2. 倫理学の基礎概念を理解する。
3. 歴史上の代表的な倫理学説・思想について学ぶ。
4. 一貫した論理性をもつ倫理的思考力を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 倫理学の基本的な思考方法
2. 古代ギリシアにおける倫理学説・思想
3. 近現代における倫理学説・思想
4. 倫理的人間観の歴史的変遷

参考文献

アリストテレス『ニコマコス倫理学』上・下、高田三郎訳(岩波文庫)1971-73年

カント『道徳形而上学原論』篠田英夫訳(岩波文庫)、1960年

御子柴善之『自分で考える勇気 カント哲学入門』(岩波ジュニア新書)、2015年

轟孝夫『ハイデガー『存在と時間』入門』(講談社現代新書)、2017年

評価基準

■ レポート評価

評価基準は、

1. レポート作成上の形式が守られているか。
2. 内容の正確な理解ができているか。
3. 自分の意見を理由と共に論じられているか。

の三点とする。

■科目終了試験評価

評価は、内容の正誤ではなく、論理的かつ説得的な論述力と倫理的思考力によって判断する。

『倫理学を学ぶ人のために』宇都宮芳明・熊野純彦編(世界思想社)

2019 年度～

科目概要

私たちは生活の中で常に何かを行なって過ごしています。けれども、ただでたらしめに行なっているわけではありません。「何かのために」、或いは「何かを得たいと思って」行動しているはずですが、つまり人間の行為には「目的」が欠かせないのです。そして人間の行為は常に「善悪」という評価とも切り離せません。どのような行為もこの評価軸の中に定位されます。つまり倫理学とは、日常生活で繰り返される人間の行為が、どのような構造を持ち、どのような根拠によって評価されるのか、これらを反省的な視点から検討する学問だと言えるでしょう。もちろんそれは行為の検討にのみ留まるものではありません。行為者が社会共同体の中で行為する以上、社会共同体に対する視点も欠かすことはできないからです。

本授業では、倫理学の成立の場である古代から現代に至るまで、さまざまな思想に触れることで、改めて人間の行為の意味を考察していきたいと思えます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 倫理学の基本的な思考方法を体得する。
2. 倫理学の基礎概念を理解する。
3. 歴史上の代表的な倫理学説・思想について学ぶ。
4. 一貫した論理性をもつ倫理的思考力を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 倫理学の基本的な思考方法
2. 古代ギリシアにおける倫理学説・思想
3. 近現代における倫理学説・思想
4. 倫理的人間観の歴史的変遷

参考文献

アリストテレス『ニコマコス倫理学』上・下、高田三郎訳(岩波文庫)、1971-73 年

カント『道徳而上学原論』篠田英夫訳(岩波文庫)、1960 年

御子柴善之『自分で考える勇気 カント哲学入門』(岩波ジュニア新書)、2015 年

轟孝夫『ハイデガー『存在と時間』入門』(講談社現代新書)、2017 年

評価基準

■ レポート評価

評価基準は、

1. レポート作成上の形式が守られているか。
2. 内容の正確な理解ができているか。
3. 自分の意見を理由と共に論じられているか。

の三点とする。

■科目終了試験評価

評価は、内容の正誤ではなく、論理的かつ説得的な論述力と倫理的思考力によって判断する。

『倫理学を学ぶ人のために』宇都宮芳明・熊野純彦編(世界思想社)

2010 年度～

科目概要

既に「倫理学1」の科目概要でも述べたことですが、倫理学とは、人間の行為に常に付きまとう善悪という評価がどのような構造を持って成立しているのかを考察し、ひいては、「望ましい行為」「行なうべきでない行為」について、個々人の視点で、或いは社会共同体の枠組みの中で考察する学問です。本科目では、「倫理学1」に引き続き、人間の行為について、反省的視点から考察をしていきたいと思えます。

ただし、出発点である古代や近世の倫理学を扱った「倫理学1」に対し、「倫理学2」は、私たちに身近な現代的な問題をも考察の対象にします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代の代表的な倫理学説・思想について学ぶ。
2. 高度な倫理的思考方法を体得する。
3. 生命倫理・環境倫理についての理解を深める。
4. 現代の諸問題に対する倫理的判断力の養成。

■ 科目の学習要点事項

1. 正義論と平等論
2. 生命倫理
3. 環境倫理
4. 個人と社会の関係に関する倫理的考察

参考文献

テキストの「文献案内」を参照。

なお、2 単位科目の課題については、以下の文献を参照。

2a 加藤尚武、『現代倫理学入門』、講談社〔講談社学術文庫〕

2b 同上

2c 加藤尚武、『新・環境倫理学のすすめ』、丸善〔丸善ライブラリー〕

評価基準

■ レポート評価

評価基準は、

1. レポート作成上の形式が守られているか。
2. 内容の正確な理解ができているか。
3. 自分の意見を理由と共に論じられているか。

の三点とする。

■ 科目終了試験評価

評価は、必ずしも内容の正誤のみではなく、論理的かつ説得的な論述力と倫理的思考力によっても判断する。

『倫理学を学ぶ人のために』宇都宮芳明・熊野純彦編(世界思想社)

2019 年度～

科目概要

既に「倫理学 A」の科目概要でも述べたことですが、倫理学とは、人間の行為に常に付きまとう善悪という評価がどのような構造を持って成立しているのかを考察し、ひいては、「望ましい行為」「行なうべきでない行為」について、個々人の視点で、或いは社会共同体の枠組みの中で考察する学問です。本科目では、「倫理学 A」に引き続き、人間の行為について、反省的視点から考察をしていきたいと思えます。

ただし、出発点である古代や近世の倫理学を扱った「倫理学 A」に対し、「倫理学 B」は、私たちに身近な現代的な問題をも考察の対象にします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代の代表的な倫理学説・思想について学ぶ。
2. 高度な倫理的思考方法を体得する。
3. 生命倫理・環境倫理についての理解を深める。
4. 現代の諸問題に対する倫理的判断力の養成。

■ 科目の学習要点事項

1. 正義論と平等論
2. 生命倫理
3. 環境倫理
4. 個人と社会の関係に関する倫理的考察

参考文献

テキストの「文献案内」を参照。

なお、2 単位科目の課題については、以下の文献を参照。

2a 加藤尚武、『現代倫理学入門』、講談社学術文庫

2b 同上

2c 加藤尚武、『新・環境倫理学のすすめ』、丸善[丸善ライブラリー]

評価基準

■ レポート評価

評価基準は、

1. レポート作成上の形式が守られているか。
2. 内容の正確な理解ができているか。
3. 自分の意見を理由と共に論じられているか。

の三点とする。

■ 科目終了試験評価

評価は、必ずしも内容の正誤のみではなく、論理的かつ説得的な論述力と倫理的思考力によっても判断する。

使用テキスト

配本年度

『宗教学のエッセンス -宗教・呪術・科学-』芦名定道著(北樹出版)

2010年度～

科目概要

宗教学とは宗教現象を研究する学であると言え、しかし何が宗教で何がそうでないのか、その境界がどんどん曖昧になってきているように思われる今日、宗教学とは一体どのような学問なのであろうか。本講では、神学とも宗教哲学とも異なる、近代科学としての宗教学が宗教という現象にいかに関わり合っているのか、その基本的なアプローチを学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代宗教学とはいかなる学問か
2. 現代宗教学にとって宗教とはどのようなものか
3. 現代宗教学にとって人間はどのような存在か

■ 科目の学習要点事項

1. 現代宗教学とはいかなる学問か
2. 現代宗教学の宗教概念
3. 「信じる」ということ
4. 信の対象—聖なるもの
5. 宗教的象徴—信じる者と聖なるものを繋ぐもの
6. 神話の問題
7. 儀礼の問題
8. 呪術や占い
9. 宗教の変容—世俗化論
10. 宗教史
11. 新宗教と現代
12. 現代宗教学にとっての人間の宗教性

参考文献

教科書各講末に付されたブックガイドを参照のこと。

評価基準

■ レポート評価

教科書第一部の的確な理解と複数の論点を一つの論述にまとめることが求められます。

■ 科目終了試験評価

学習要点事項の的確な理解(教科書第一部各講の理解)が求められます。

使用テキスト

配本年度

『宗教学のエッセンス -宗教・呪術・科学-』芦名定道著(北樹出版)

2019 年度～

科目概要

宗教学とは宗教現象を研究する学であると言えらる。しかし何が宗教で何がそうでないのか、その境界がどんどん曖昧になってきているように思われる今日、宗教学とは一体どのような学問なのであろうか。本講では、神学とも宗教哲学とも異なる、近代科学としての宗教学が宗教という現象にいかに関わろうとしているのか、その基本的なアプローチを学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代宗教学とはいかなる学問か
2. 現代宗教学にとって宗教とはどのようなものか
3. 現代宗教学にとって人間はどのような存在か

■ 科目の学習要点事項

1. 現代宗教学とはいかなる学問か
2. 現代宗教学の宗教概念
3. 「信じる」ということ
4. 信の対象—聖なるもの
5. 宗教的象徴—信じる者と聖なるものを繋ぐもの
6. 神話の問題
7. 儀礼の問題
8. 呪術や占い
9. 宗教の変容—世俗化論
10. 宗教史
11. 新宗教と現代
12. 現代宗教学にとっての人間の宗教性

参考文献

教科書各講末に付されたブックガイドを参照のこと。

評価基準

■ レポート評価

教科書第一部の的確な理解と複数の論点を一つの論述にまとめることが求められます。

■ 科目終了試験評価

学習要点事項の的確な理解(教科書第一部各講の理解)が求められます。

使用テキスト

配本年度

『宗教学のエッセンス -宗教・呪術・科学-』芦名定道著(北樹出版)

2010年度～

科目概要

宗教と科学の関係に関わる思想史的問題を、西洋世界における宗教と科学の関係史を概観しつつ、紹介する。また宗教の観点から現代の世界観の問題、また生命倫理・環境倫理の問題を考える。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 科学時代における宗教思想の意義を考える。
2. キリスト教思想と科学の関係・その思想的問題を理解する。
3. 環境倫理・生命倫理といった現代的問題に対する宗教あるいは宗教思想の意味を考える。

■ 科目の学習要点事項

1. 宗教と科学の関係史
2. 旧約聖書の創造論
3. イエスの福音と終末論
4. 「無からの創造」と自然の探究
5. 12世紀ルネサンスと自然神学
6. 科学革命の巨人たちとガリレオ裁判
7. 進化論とキリスト教
8. 宗教と科学の現在
9. 宗教と科学の未来—新しい世界像—
10. 生命倫理の挑戦とキリスト教
11. 環境倫理と「ノアのヴィジョン」

参考文献

教科書各講末に付されたブックガイドを参照のこと。

評価基準

■ レポート評価

教科書第二部の的確な理解と複数の論点を一つの論述にまとめることが求められます。

■ 科目終了試験評価

学習要点事項の的確な理解(教科書第二部各講の理解)が求められます。

使用テキスト

配本年度

『宗教学のエッセンス -宗教・呪術・科学-』芦名定道著(北樹出版)

2010年度～

科目概要

宗教と科学の関係に関わる思想史的問題を、西洋世界における宗教と科学の関係史を概観しつつ、紹介する。また宗教の観点から現代の世界観の問題、また生命倫理・環境倫理の問題を考える。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 科学時代における宗教思想の意義を考える。
2. キリスト教思想と科学の関係・その思想的問題を理解する。
3. 環境倫理・生命倫理といった現代的問題に対する宗教あるいは宗教思想の意味を考える。

■ 科目の学習要点事項

1. 宗教と科学の関係史
2. 旧約聖書の創造論
3. イエスの福音と終末論
4. 「無からの創造」と自然の探究
5. 12世紀ルネサンスと自然神学
6. 科学革命の巨人たちとガリレオ裁判
7. 進化論とキリスト教
8. 宗教と科学の現在
9. 宗教と科学の未来—新しい世界像—
10. 生命倫理の挑戦とキリスト教
11. 環境倫理と「ノアのヴィジョン」

参考文献

教科書各講末に付されたブックガイドを参照のこと。

評価基準

■ レポート評価

教科書第二部の的確な理解と複数の論点を一つの論述にまとめることが求められます。

■ 科目終了試験評価

学習要点事項の的確な理解(教科書第二部各講の理解)が求められます。

使用テキスト

配本年度

『心理学の基礎 三訂版』今田寛編(培風館)

2011年度～2016年度

『心理学の基礎 四訂版』今田寛・宮田洋・賀集寛編(培風館)

2017年度～

科目概要

“こころ”は、誰もが身近に感じているものかもしれない。しかし、科学的な方法から“こころ”にアプローチする学問である心理学には、多種多様な研究者、専門用語や概念が存在する。そこで本科目では、(1)140年余りの歴史を持つ心理学がこれまで、いかなる方法論で“こころ”にアプローチしてきたか、(2)それによって現在、どのような専門的知見が蓄積されているのか、概説的に学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 心理学の全体像(歴史、理論や領域)についての的確な理解を深める。
2. 心理学で基本とされる人名、専門用語、概念を学ぶ。
3. 心理学的な知見と日常生活とのつながりについて理解を深める。
4. 自分なりに考え表現する力を備える

■ 科目の学習要点事項

1. 心理学における心の捉え方
2. 心理学における研究方法
3. 心理学における5つのアプローチ
4. 心理学の基礎知識(人名、専門用語、概念)

参考文献

『心理用語の基礎知識』東洋・大山正・詫摩武俊・藤永保(有斐閣ブックス、1978)

『心理学物語』ボールズ, R. C.(北大路書房、2004)

『ヒルガードの心理学 第16版』内田一成監訳(金剛出版、2015)

『新装版 日本語の作文技術』本多勝一(講談社、2005)

『レポートの組み立て方』木下是雄(ちくま学芸文庫、1994)

『論理が伝わる世界標準の「書く技術」—パラグラフ・ライティング入門—』倉島保美(講談社ブルーバックス、2012)

『新・心理学の基礎知識』中島義明・繁樹算男・箱田裕司編(有斐閣、2005)

『臨床心理学キーワード 補訂版』坂野雄二編(有斐閣双書、2005)

評価基準

■レポート評価

以下の点から評価する。

1. 課題内容を説明できているか
2. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を書いているか
3. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を説明もしくは整理できているか
4. 一文一文が分かりやすく書けているか
5. 説明を分かりやすくするための段落内構成・段落間関係の文章になっているか
6. 適度な分量で書けているか
7. 自分なりに特別に学習した内容が反映されているか

■科目終了試験評価

以下の点から評価する。

1. 課題内容を説明できているか
2. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を書いているか
3. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を説明もしくは整理できているか
4. 一文一文が分かりやすく書けているか
5. 説明を分かりやすくするための段落内構成・段落間関係の文章になっているか
6. 適度な分量で書けているか

『心理学の基礎 四訂版』今田寛・宮田洋・賀集寛編(培風館)

2019 年度～

科目概要

“こころ”は、誰もが身近に感じているものかもしれない。しかし、科学的な方法から“こころ”にアプローチする学問である心理学には、多種多様な研究者、専門用語や概念が存在する。そこで本科目では、(1)140 年余りの歴史を持つ心理学がこれまで、いかなる方法論で“こころ”にアプローチしてきたか、(2)それによって現在、どのような専門的知見が蓄積されているのか、概説的に学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 心理学の全体像(歴史、理論や領域)についての的確な理解を深める。
2. 心理学で基本とされる人名、専門用語、概念を学ぶ。
3. 心理学的な知見と日常生活とのつながりについて理解を深める。
4. 自分なりに考え表現する力を備える

■ 科目の学習要点事項

1. 心理学における心の捉え方
2. 心理学における研究方法
3. 心理学における5つのアプローチ
4. 心理学の基礎知識(人名、専門用語、概念)

参考文献

『心理用語の基礎知識』東洋・大山正・詫摩武俊・藤永保(有斐閣ブックス、1978)

『心理学物語』ボールズ, R. C.(北大路書房、2004)

『ヒルガードの心理学 第16版』内田一成監訳(金剛出版、2015)

『新装版 日本語の作文技術』本多勝一(講談社、2005)

『レポートの組み立て方』木下是雄(ちくま学芸文庫、1994)

『論理が伝わる世界標準の「書く技術」—パラグラフ・ライティング入門—』倉島保美(講談社ブルーバックス、2012)

『新・心理学の基礎知識』中島義明・繁榊算男・箱田裕司編(有斐閣、2005)

『臨床心理学キーワード 補訂版』坂野雄二編(有斐閣双書、2005)

評価基準

■レポート評価

以下の点から評価する。

1. 課題内容を説明できているか
2. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を書いているか
3. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を説明もしくは整理できているか
4. 一文一文が分かりやすく書けているか
5. 説明を分かりやすくするための段落内構成・段落間関係の文章になっているか
6. 適度な分量で書けているか
7. 自分なりに特別に学習した内容が反映されているか

■科目終了試験評価

以下の点から評価する。

1. 課題内容を説明できているか
2. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を書いているか
3. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を説明もしくは整理できているか
4. 一文一文が分かりやすく書けているか
5. 説明を分かりやすくするための段落内構成・段落間関係の文章になっているか
6. 適度な分量で書けているか

使用テキスト

配本年度

『心理学の基礎 三訂版』今田寛編(培風館)

2011年度～2016年度

『心理学の基礎 四訂版』今田寛・宮田洋・賀集寛編(培風館)

2017年度～

科目概要

“こころ”は、誰もが身近に感じているものかもしれない。しかし、科学的な方法から“こころ”にアプローチする学問である心理学には、多種多様な研究者、専門用語や概念が存在する。そこで本科目では、(1)140年余りの歴史を持つ心理学がこれまで、いかなる方法論で“こころ”にアプローチしてきたか、(2)それによって現在、どのような専門的知見が蓄積されているのか、概説的に学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 心理学の全体像(歴史、理論や領域)についての的確な理解を深める。
2. 心理学で基本とされる人名、専門用語、概念を学ぶ。
3. 心理学的な知見と日常生活とのつながりについて理解を深める。
4. 自分なりに考え表現する力を備える。

■ 科目の学習要点事項

1. 心理学における心の捉え方
2. 心理学における研究方法
3. 心理学における5つのアプローチ
4. 心理学の基礎知識(人名、専門用語、概念)

参考文献

『心理用語の基礎知識』東洋・大山正・詫摩武俊・藤永保(有斐閣ブックス、1978)

『心理学物語』ボールズ, R. C.(北大路書房、2004)

『ヒルガードの心理学 第16版』内田一成監訳(金剛出版、2015)

『新装版 日本語の作文技術』本多勝一(講談社、2005)

『レポートの組み立て方』木下是雄(ちくま学芸文庫、1994)

『論理が伝わる世界標準の「書く技術」—パラグラフ・ライティング入門—』倉島保美(講談社ブルーバックス、2012)

『新・心理学の基礎知識』中島義明・繁樹算男・箱田裕司編(有斐閣、2005)

『臨床心理学キーワード 補訂版』坂野雄二編(有斐閣双書、2005)

■レポート評価

以下の点から評価する。

1. 課題内容を説明できているか
2. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を書いているか
3. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を説明もしくは整理できているか
4. 一文一文が分かりやすく書けているか
5. 説明を分かりやすくするための段落内構成・段落内関係の文章になっているか
6. 適度な分量で書けているか
7. 自分なりに特別に学習した内容が反映されているか

■科目終了試験評価

以下の点から評価する。

1. 課題内容を説明できているか
2. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を書いているか
3. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を説明もしくは整理できているか
4. 一文一文が分かりやすく書けているか
5. 説明を分かりやすくするための段落内構成・段落内関係の文章になっているか
6. 適度な分量で書けているか

『心理学の基礎 四訂版』今田寛・宮田洋・賀集寛編(培風館)

2019 年度～

科目概要

“こころ”は、誰もが身近に感じているものかもしれない。しかし、科学的な方法から“こころ”にアプローチする学問である心理学には、多種多様な研究者、専門用語や概念が存在する。そこで本科目では、(1)140 年余りの歴史を持つ心理学がこれまで、いかなる方法論で“こころ”にアプローチしてきたか、(2)それによって現在、どのような専門的知見が蓄積されているのか、概説的に学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 心理学の全体像(歴史、理論や領域)についての的確な理解を深める。
2. 心理学で基本とされる人名、専門用語、概念を学ぶ。
3. 心理学的な知見と日常生活とのつながりについて理解を深める。
4. 自分なりに考え表現する力を備える。

■ 科目の学習要点事項

1. 心理学における心の捉え方
2. 心理学における研究方法
3. 心理学における5つのアプローチ
4. 心理学の基礎知識(人名、専門用語、概念)

参考文献

『心理用語の基礎知識』東洋・大山正・詫摩武俊・藤永保(有斐閣ブックス、1978)

『心理学物語』ボールズ, R. C.(北大路書房、2004)

『ヒルガードの心理学 第16版』内田一成監訳(金剛出版、2015)

『新装版 日本語の作文技術』本多勝一(講談社、2005)

『レポートの組み立て方』木下是雄(ちくま学芸文庫、1994)

『論理が伝わる世界標準の「書く技術」—パラグラフ・ライティング入門—』倉島保美(講談社ブルーバックス、2012)

『新・心理学の基礎知識』中島義明・繁榊算男・箱田裕司編(有斐閣、2005)

『臨床心理学キーワード 補訂版』坂野雄二編(有斐閣双書、2005)

■レポート評価

以下の点から評価する。

1. 課題内容を説明できているか
2. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を書いているか
3. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を説明もしくは整理できているか
4. 一文一文が分かりやすく書けているか
5. 説明を分かりやすくするための段落内構成・段落内関係の文章になっているか
6. 適度な分量で書けているか
7. 自分なりに特別に学習した内容が反映されているか

■科目終了試験評価

以下の点から評価する。

1. 課題内容を説明できているか
2. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を書いているか
3. 課題内容の説明に必要な人名、用語、あるいは概念を説明もしくは整理できているか
4. 一文一文が分かりやすく書けているか
5. 説明を分かりやすくするための段落内構成・段落内関係の文章になっているか
6. 適度な分量で書けているか

『教育原理』 佐々井利夫 他著(明星大学出版部)

2016 年度～

科目概要

教育とは何か、人間は何のために、何を、どのように教育してきたかを振り返るとともに、教育をどう考えるかについて先人に学び、人間教育についての確かな認識をもつ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育の本質について理解する
2. 教育の必要性・可能性について理解する。
3. 教育の歴史を振り返り、先人の考え方に学んで、問題山積で混迷する現代教育を掛け値なく見据え、これからの教育に明るい展望をもつ。

■ 科目の学習要点事項

1. 言葉としての「教育」。
 - 1) (漢字)「教」と「育」
 - 2) (大和言葉)「をしふ」と「そだつる」
 - 3) (西欧語とりわけ英語) *education*
2. 人間の誕生・発達の特異性と教育の必要性・可能性
3. 教育の歴史、近代科学と学校式教育
4. 教育の思想、あるいは「子どもの発見」と教育的価値観の転換

参考文献

- ①村井実『教育学入門』(上)、講談社学術文庫 27
- ②村井実『教育学入門』(下)、講談社学術文庫 28
- ③A・ポルトマン(高木正孝訳)『人間はどこまで動物か』岩波新書 G125
- ④押村襄ほか著『ルソーとその時代』教育の発見双書、玉川大学出版部

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心に所定の文字数にまとめること。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい到達しているかを測るものである。それぞれの学習要点にかかわるテキスト(第1章、第2章)の記述を中心に整理し、重要事項について理解を深めておくこと。

『教育原理』 佐々井利夫 他著(明星大学出版部)

2019 年度～

科目概要

教育とは何か、人間は何のために、何を、どのように教育してきたかを振り返るとともに、教育をどう考えるかについて先人に学び、人間教育についての確かな認識をもつ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育の本質について理解する
2. 教育の必要性・可能性について理解する。
3. 教育の歴史を振り返り、先人の考え方に学んで、問題山積で混迷する現代教育を掛け値なく見据え、これからの教育に明るい展望をもつ。

■ 科目の学習要点事項

1. 言葉としての「教育」。
 - 1) (漢字)「教」と「育」
 - 2) (大和言葉)「をしふ」と「そだつる」
 - 3) (西欧語とりわけ英語) *education*
2. 人間の誕生・発達の特異性と教育の必要性・可能性
3. 教育の歴史、近代科学と学校式教育
4. 教育の思想、あるいは「子どもの発見」と教育的価値観の転換

参考文献

- ①村井実『教育学入門』(上)、講談社学術文庫 27
- ②村井実『教育学入門』(下)、講談社学術文庫 28
- ③A・ポルトマン(高木正孝訳)『人間はどこまで動物か』岩波新書 G125
- ④押村襄ほか著『ルソーとその時代』教育の発見双書、玉川大学出版部

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心に所定の文字数にまとめること。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい到達しているかを測るものである。それぞれの学習要点にかかわるテキスト(第1章、第2章)の記述を中心に整理し、重要事項について理解を深めておくこと。

『教育原理』 佐々井利夫 他編(明星大学出版部)

2016 年度～

科目概要

わが国の歴史をたどりながら、その中で学校教育が果たしてきた役割について反省的に振りかえり、民主主義を原則とする教育、すなわち、主権者たる国民のための教育とは何かについて確かな認識をもつ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

日本の教育は、何を目的として、どのように行われ、何をもたらしてきたのか、とりわけ学校教育はそこでどのような役割を担ってきたのかについて、反省的に振りかえり、この先われわれは、われわれの後に続く者の教育をどう築き上げていけばよいのかについて、確かな問題認識をもつと同時に、高等教育を受けた者の責務を自覚する。

■ 科目の学習要点事項

1. わが国の学校教育(戦前)
2. わが国の学校教育(戦後)―学習指導要領の改訂にそって―
3. 学校の教師
4. 変化する家族と子ども、あるいは家庭教育の意義と役割

参考文献

- ①山住正己『日本教育小史』岩波新書 363
- ②文部科学省『小学校学習指導要領 解説(総則)編』
- ③住田・高島編著『子どもの発達社会学―教育社会学入門』北樹出版、2011
- ④Ph・アリエス(杉山光信・恵美子訳)『〈子供〉の誕生』みすず書房、1981

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心に所定の文字数にまとめること。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい到達しているかを測るものである。それぞれの学習要点にかかわるテキストの記述を中心に整理し、参考文献を活用して、重要事項について理解を深めておくこと。

『教育原理』 佐々井利夫 他編(明星大学出版部)

2019 年度～

科目概要

わが国の歴史をたどりながら、その中で学校教育が果たしてきた役割について反省的に振りかえり、民主主義を原則とする教育、すなわち、主権者たる国民のための教育とは何かについて確かな認識をもつ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

日本の教育は、何を目的として、どのように行われ、何をもたらしてきたのか、とりわけ学校教育はそこでどのような役割を担ってきたのかについて、反省的に振りかえり、この先われわれは、われわれの後に続く者の教育をどう築き上げていけばよいのかについて、確かな問題認識をもつと同時に、高等教育を受けた者の責務を自覚する。

■ 科目の学習要点事項

1. わが国の学校教育(戦前)
2. わが国の学校教育(戦後)―学習指導要領の改訂にそって―
3. 学校の教師
4. 変化する家族と子ども、あるいは家庭教育の意義と役割

参考文献

- ①山住正己『日本教育小史』岩波新書 363
- ②文部科学省『小学校学習指導要領 解説(総則)編』
- ③住田・高島編著『子どもの発達社会学―教育社会学入門』北樹出版、2011
- ④Ph・アリエス(杉山光信・恵美子訳)『〈子供〉の誕生』みすず書房、1981

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心に所定の文字数にまとめること。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい到達しているかを測るものである。それぞれの学習要点にかかわるテキストの記述を中心に整理し、参考文献を活用して、重要事項について理解を深めておくこと。

使用テキスト

配本年度

『Read Well, Write Better』(成美堂)

2020年度～

科目概要

各Chapterの文章読解と「Focus Point」(文法)をとおして、英文の基礎的な読み方と作り方を学習します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基礎的な読解能力を身に付ける。
2. 基礎的な文法をマスターする。
3. 簡単な英文を書ける能力を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 英語の基礎的な読解能力。
2. 速読による文脈からの内容理解。
3. 基礎文法の習得。
4. 文法・慣用表現の英作文における応用力。

参考文献

①紙辞書、電子辞書を問いませんが、英和辞書をかならず使って解答してください。

評価基準

■ レポート評価

1. わからない単語や表現は辞書でかならず確認して、レポートを作成してください。スペルミスやケアレスミス、単純な文法ミスが多いものは不合格になります。
2. 他レポートの丸写しなど、不正は一切認めません(丸写しは不自然な表現やスペルミスなどで簡単に発覚します)。その場合、採点はしません。

『Read Well, Write Better』(成美堂)

2020 年度～

科目概要

各Chapterの文章読解と「Focus Point」(文法)をとおして、英文の基礎的な読み方と作り方を学習します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基礎的な読解能力を身に付ける。
2. 基礎的な文法をマスターする。
3. 簡単な英文を書ける能力を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 英語の基礎的な読解能力。
2. 速読による文脈からの内容理解。
3. 基礎文法の習得。
4. 文法・慣用表現の英作文における応用力。

。

参考文献

①紙辞書、電子辞書を問いませんが、英和辞書をかならず使って解答してください。

評価基準

■ レポート評価

1. わからない単語や表現は辞書でかならず確認して、レポートを作成してください。スペルミスやケアレスミス、単純な文法ミスが多いものは不合格になります。
2. 他レポートの丸写しなど、不正は一切認めません(丸写しは不自然な表現やスペルミスなどで簡単に発覚します)。その場合、採点はしません。

使用テキスト

配本年度

『Read Well, Write Better』(成美堂)

2020 年度～

科目概要

各Chapterの文章読解と「Focus Point」(文法)をとおして、英文の基礎的な読み方と作り方を学習します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基礎的な読解能力を身に付ける。
2. 基礎的な文法をマスターする。
3. 簡単な英文を書ける能力を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 英語の基礎的な読解能力。
2. 速読による文脈からの内容理解。
3. 基礎文法の習得。
4. 文法・慣用表現の英作文における応用力。

参考文献

①紙辞書、電子辞書を問いませんが、英和辞書をかならず使って解答してください。

評価基準

■ レポート評価

1. わからない単語や表現は辞書でかならず確認して、レポートを作成してください。スペルミスやケアレスミス、単純な文法ミスが多いものは不合格になります。
2. 他レポートの丸写しなど、不正は一切認めません(丸写しは不自然な表現やスペルミスなどで簡単に発覚します)。その場合、採点はしません。

使用テキスト

配本年度

『Read Well, Write Better』(成美堂)

2020 年度～

科目概要

各Chapterの文章読解と「Focus Point」(文法)をとおして、英文の基礎的な読み方と作り方を学習します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 基礎的な読解能力を身に付ける。
2. 基礎的な文法をマスターする。
3. 簡単な英文を書ける能力を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 英語の基礎的な読解能力。
2. 速読による文脈からの内容理解。
3. 基礎文法の習得。
4. 文法・慣用表現の英作文における応用力。

参考文献

①紙辞書、電子辞書を問いませんが、英和辞書をかならず使って解答してください。

評価基準

■ レポート評価

1. わからない単語や表現は辞書でかならず確認して、レポートを作成してください。スペルミスやケアレスミス、単純な文法ミスが多いものは不合格になります。
2. 他レポートの丸写しなど、不正は一切認めません(丸写しは不自然な表現やスペルミスなどで簡単に発覚します)。その場合、採点はしません。

『ドイツ語 I』私立大学通信教育協会編

2010 年度～

科目概要

初級ドイツ語入門の第一歩として始める前半の科目です。テキスト『ドイツ語 I』の1ページから117ページまでを前半の勉強範囲とします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. まずドイツ語文字の正確な発音を言えるようにする。
2. それには、発声器官、母音、子音の説明にある個々の単語を発音し、自分の発音する音を聞いてみる。
3. とくに母音の長短、副母音の音、子音の複数の組み合わせ音をおぼえる。
4. 動詞の人称変化を理解する。基本は語幹末のつづりと格変化語尾のつづりをスムーズに合体させて歯切れのよい音にすることが肝要で、とりあえず基本的な規則動詞はどれも各人称代名詞とともに変化させて、自分の発音を聞きながらやってみることである。または書きながらおぼえることも有効手段である。
5. 例外的動詞の現在人称変化があることを知っておく。
6. ドイツ語の個々の名詞には三つの性のいずれかが与えられており、それは定冠詞をつけて発音する癖をつける。(男性・女性・中性名詞)
7. 格変化を冠詞と名詞を一体化して、一格、二格、三格、四格のそれぞれを書けるようにつとめる。
8. 発音の説明は随所にあるので、その都度、声を出して確認する。
9. 不定冠詞とそのグループ、定冠詞とそのグループの格変化をできるようにする。前置詞の用法、意味を会得する。これも名詞、代名詞とともに用いた文例から個々の前置詞の用法を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 自分の声を出して単語の音を確認する。
2. 動詞の変化は必ず各人称代名詞とともに声を出しながら書いてみる。
3. 個々の単語の意味は辞書で確認し、名詞の性も確認する。

参考文献

『新アポロン独和辞典』同学社

評価基準

■ レポート評価

注意事項で示したことを十分に考慮して提出されたい。解答箇所が誤っている場合はヒントだけを示す予定。

『ドイツ語 I』私立大学通信教育協会編

2019 年度～

科目概要

初級ドイツ語入門の第一歩として始める前半の科目です。テキスト『ドイツ語 I』の1ページから117ページまでを前半の勉強範囲とします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. まずドイツ語文字の正確な発音を言えるようにする。
2. それには、発声器官、母音、子音の説明にある個々の単語を発音し、自分の発音する音を聞いてみる。
3. とくに母音の長短、副母音の音、子音の複数の組み合わせ音をおぼえる。
4. 動詞の人称変化を理解する。基本は語幹末のつづりと格変化語尾のつづりをスムーズに合体させて歯切れのよい音にすることが肝要で、とりあえず基本的な規則動詞はどれも各人称代名詞とともに変化させて、自分の発音を聞きながらやってみることである。または書きながらおぼえることも有効手段である。
5. 例外的動詞の現在人称変化があることを知っておく。
6. ドイツ語の個々の名詞には三つの性のいずれかが与えられており、それは定冠詞をつけて発音する癖をつける。(男性・女性・中性名詞)
7. 格変化を冠詞と名詞を一体化して、一格、二格、三格、四格のそれぞれを書けるようにつとめる。
8. 発音の説明は随所にあるので、その都度、声を出して確認する。
9. 不定冠詞とそのグループ、定冠詞とそのグループの格変化をできるようにする。前置詞の用法、意味を会得する。これも名詞、代名詞とともに用いた文例から個々の前置詞の用法を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 自分の声を出して単語の音を確認する。
2. 動詞の変化は必ず各人称代名詞とともに声を出しながら書いてみる。
3. 個々の単語の意味は辞書で確認し、名詞の性も確認する。

参考文献

『新アポロン独和辞典』同学社

評価基準

■ レポート評価

注意事項で示したことを十分に考慮して提出されたい。解答箇所が誤っている場合はヒントだけを示す予定。

使用テキスト

配本年度

『ドイツ語 I』私立大学通信教育協会編

2010 年度～

科目概要

初級ドイツ語入門の第二歩として始める後半の科目です。テキスト『ドイツ語 I』の 118 ページから 196 ページまでを後半の勉強範囲とします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 名詞には五つの型のいずれかに属する複数形があることを知る。
2. 数詞も発音とつづりを一致させるようにする。
3. 形容詞の変化の型を理解する。これも格変化の練習が重要である。
4. 序数も日付の表現では形容詞のように変化をすることを確認する。
5. 話法の助動詞の変化と意味・用法、枠構造なる文構造、語順にも注目する。
6. 定動詞の位置はたえず主語との関係から注意する。(正置、倒置、後置)
7. 読章、ドイツの歌、詩などはここでもう一度、ていねいに読み直すことが肝要です。各文法事項の勉強は偏りにドイツ語文を読めるようになるためのものです。そこを再確認していただきたい。

■ 科目の学習要点事項

1. 自分の声を出して単語の音を確認する。
2. 動詞の変化は必ず各人称代名詞とともに声を出しながら書いてみる。
3. 個々の単語の意味は辞書で確認し、名詞の性も確認する。

参考文献

『新アポロン独和辞典』同学社

評価基準

■ レポート評価

注意事項で示したことを十分に考慮して提出されたい。解答箇所が誤っている場合はヒントだけを示す予定。

『ドイツ語 I』私立大学通信教育協会編

2019 年度～

科目概要

初級ドイツ語入門の第二歩として始める後半の科目です。テキスト『ドイツ語 I』の 118 ページから 196 ページまでを後半の勉強範囲とします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 名詞には五つの型のいずれかに属する複数形があることを知る。
2. 数詞も発音とつづりを一致させるようにする。
3. 形容詞の変化の型を理解する。これも格変化の練習が重要である。
4. 序数も日付の表現では形容詞のように変化をすることを確認する。
5. 話法の助動詞の変化と意味・用法、枠構造なる文構造、語順にも注目する。
6. 定動詞の位置はたえず主語との関係から注意する。(正置、倒置、後置)
7. 読章、ドイツの歌、詩などはここでもう一度、ていねいに読み直すことが肝要です。各文法事項の勉強は偏りにドイツ語文を読めるようになるためのものです。そこを再確認していただきたい。

■ 科目の学習要点事項

1. 自分の声を出して単語の音を確認する。
2. 動詞の変化は必ず各人称代名詞とともに声を出しながら書いてみる。
3. 個々の単語の意味は辞書で確認し、名詞の性も確認する。

参考文献

『新アポロン独和辞典』同学社

評価基準

■ レポート評価

注意事項で示したことを十分に考慮して提出されたい。解答箇所が誤っている場合はヒントだけを示す予定。

『ドイツ語Ⅱ』私立大学通信教育協会編

2010年度～

科目概要

初級ドイツ語入門の第三步として始める前半の科目です。テキスト『ドイツ語Ⅱ』の1ページから92ページまでを前半の勉強範囲とします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ドイツ語Ⅱのテキストの手始めとしてやさしい文章論を学ぶ。
2. 強変化動詞不規則変化動詞を発音しながら、特に単数親称二人称、単数三人称の変化の型をおぼえる。
3. 複合動詞を形成する意味を持つ前つづりを分離・非分離に大別して学ぶ。
4. 主語への動作のはねかえり表現である再帰動詞・代名詞を用いて文を作る。
5. 動詞の三要形の規則的变化形を習得し、不規則的な変化形を学ぶ。
6. 過去表現を現在完了形と過去時制から区別した用い方を習得する。
7. 「休憩室」の項にあるドイツ語文テキストもていねいに反復して読解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 動詞の現在人称変化はここでも人称代名詞とともに発音しながら習得する。
2. 分離・非分離動詞の三基本形も前つづりを除いた基本語の部分を変化させ、そののちにもう一度前つづりを付加して三基本形を作ってみる。
3. ドイツ語では現在完了形はきわめて使用頻度の高い表現であることに注意。

参考文献

『新アポロン独和辞典』同学社

評価基準

■ レポート評価

注意事項で示したことを十分に考慮して提出されたい。解答箇所が誤っている場合はヒントだけを示す予定。

『ドイツ語Ⅱ』私立大学通信教育協会編

2019年度～

科目概要

初級ドイツ語入門の第三步として始める前半の科目です。テキスト『ドイツ語Ⅱ』の1ページから92ページまでを前半の勉強範囲とします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ドイツ語Ⅱのテキストの手始めとしてやさしい文章論を学ぶ。
2. 強変化動詞不規則変化動詞を発音しながら、特に単数親称二人称、単数三人称の変化の型をおぼえる。
3. 複合動詞を形成する意味を持つ前つづりを分離・非分離に大別して学ぶ。
4. 主語への動作のはねかえり表現である再帰動詞・代名詞を用いて文を作る。
5. 動詞の三要形の規則的変化形を習得し、不規則的な変化形を学ぶ。
6. 過去表現を現在完了形と過去時制から区別した用い方を習得する。
7. 「休憩室」の項にあるドイツ語文テキストもていねいに反復して読解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 動詞の現在人称変化はここでも人称代名詞とともに発音しながら習得する。
2. 分離・非分離動詞の三基本形も前つづりを除いた基本語の部分を変化させ、そののちにもう一度前つづりを付加して三基本形を作ってみる。
3. ドイツ語では現在完了形はきわめて使用頻度の高い表現であることに注意。

参考文献

『新アポロン独和辞典』同学社

評価基準

■ レポート評価

注意事項で示したことを十分に考慮して提出されたい。解答箇所が誤っている場合はヒントだけを示す予定。

使用テキスト

配本年度

『ドイツ語Ⅱ』私立大学通信教育協会編

2010年度～

科目概要

初級ドイツ語入門の第四步として始める後半の科目です。テキスト『ドイツ語Ⅱ』の93ページから196ページまでを後半の勉強範囲とします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. zu 不定詞句「何々すること」という能動未完了の表現がどのような用法で用いられるのかを検証し習得する。
2. 形容詞・副詞の原級、比較級、最高級でのそれぞれの比較表現を習得する。
3. 非人称表現を学ぶ。
4. 能動文から受動文への書き換え表現を柔軟に作成することを習得する。
5. 副文としての関係文の作り方を学び、関係文を単一文・平叙文に戻す作業を習得する。
6. 接続法Ⅰ式、Ⅱ式をもつばら動詞の形から会得し、使用例でも理解を図る。
7. 終盤に際して、テキストはいままでの文法理解を基に読み、理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. zu 不定詞句と文のちがいをおさえる。
2. 非人称主語 es の用法は動詞とのむすびつきで理解を図る。
3. 受動文の時制をおぼえ、これもドイツ語では使用頻度が高いことに注意。
4. 関係文は文の書き換えで理解し、接続法は使用文例から考えて習得する。

参考文献

『新アポロン独和辞典』同学社

評価基準

■ レポート評価

注意事項で示したことを十分に考慮して提出されたい。解答箇所が誤っている場合はヒントだけを示す予定。

『ドイツ語Ⅱ』私立大学通信教育協会編

2019 年度～

科目概要

初級ドイツ語入門の第四步として始める後半の科目です。テキスト『ドイツ語Ⅱ』の93ページから196ページまでを後半の勉強範囲とします。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. zu 不定詞句「何々すること」という能動未完了の表現がどのような用法で用いられるのかを検証し習得する。
2. 形容詞・副詞の原級、比較級、最高級でのそれぞれの比較表現を習得する。
3. 非人称表現を学ぶ。
4. 能動文から受動文への書き換え表現を柔軟に作成することを習得する。
5. 副文としての関係文の作り方を学び、関係文を単一文・平叙文に戻す作業を習得する。
6. 接続法Ⅰ式、Ⅱ式をもつばら動詞の形から会得し、使用例でも理解を図る。
7. 終盤に際して、テキストはいままでの文法理解を基に読み、理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. zu 不定詞句と文のちがいをおさえる。
2. 非人称主語 es の用法は動詞とのむすびつきで理解を図る。
3. 受動文の時制をおぼえ、これもドイツ語では使用頻度が高いことに注意。
4. 関係文は文の書き換えで理解し、接続法は使用文例から考えて習得する。

参考文献

『新アポロン独和辞典』同学社

評価基準

■ レポート評価

注意事項で示したことを十分に考慮して提出されたい。解答箇所が誤っている場合はヒントだけを示す予定。

WH110 外国語(中国語)1A

担当教員 董丹犁 受講方法 SR

使用テキスト 配本年度

『中国語の贈り物』 山田留里子監修、金婷・齊金英・伊井健一郎著(駿河台出版社)

2010年度～

科目概要

中国の標準語を学ぶ入門科目である。

(中国語)1Aでは、発音の仕方～第2課の内容を習得する。

発音と発音記号の練習からはじめ、最も基本的な構文と語彙を学ぶ。練習問題を通して基礎をしっかりと身に付けてもらいたい。(発音を学習する段階では、毎日60分間程度予習、復習してください。)

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 基礎的な発音規則が身に付く。
2. 中国語の発音の区別ができる。
3. 簡単なフレーズを覚える。

■科目の学習要点事項

1. 中国の標準語には子音が21、母音に類するものが36もあり、音節の構造が複雑で、日本人には馴染みのない発音が少なからずあります。モデルとなるCDの発音や、ヒヤリングの問題を聞きながら、必ず声に出して何度も繰り返し練習して、一つ一つ明確に音として自分のものにしてください。
2. 中語語ははすべて漢字で書き表されます。学習者にとっては親しみやすいですが、日本語の漢字とは差異がありますので、間違いないように注意してください。
3. 名前の言い方(例:“我叫○○”)、国籍の言い方(例:“我是○○人”)などの簡単なフレーズを暗記してください。
4. 文末に“吗”を置く疑問文と疑問詞、“哪”、“谁”を使う疑問詞の組み立て方を覚えてください。

参考文献

1. 『中日辞典(第2版)』(小学館)
2. 『中日大辞典(第3版)』愛知大学編集(大修館書店)
3. 『Why?に答えるはじめての中国語の文法書』(同学社)

評価基準

■レポート評価

- ・テキストをしっかりと読み、また付属CDを聴いてから、レポート作成をしてください。
- ・わからない単語、表現はテキストだけでなく、辞書も使って調べてください。
- ・他人のコピーと思われるものは評価の対象外です。努力の見られるレポートは高く評価します。

WH112

中国語1A

担当教員

董 丹犁

受講方法

SR

使用テキスト

配本年度

『中国語の贈り物』 山田留里子監修、金婷・齊金英・伊井健一郎著(駿河台出版社)

2019年度～

科目概要

中国の標準語を学ぶ入門科目である。

中国語1Aでは、発音の仕方～第2課の内容を習得する。

発音と発音記号の練習からはじめ、最も基本的な構文と語彙を学ぶ。練習問題を通して基礎をしっかりと身に付けてもらいたい。(発音を学習する段階では、毎日60分間程度予習、復習してください。)

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 基礎的な発音規則が身に付く。
2. 中国語の発音の区別ができる。
3. 簡単なフレーズを覚える。

■科目の学習要点事項

1. 中国の標準語には子音が21、母音に類するものが36もあり、音節の構造が複雑で、日本人には馴染みのない発音が少なからずあります。モデルとなるCDの発音や、ヒヤリングの問題を聞きながら、必ず声に出して何度も繰り返し練習して、一つ一つ明確に音として自分のものにしてください。
2. 中語語ははすべて漢字で書き表されます。学習者にとっては親しみやすいですが、日本語の漢字とは差異がありますので、間違いないように注意してください。
3. 名前の言い方(例:“我叫○○”)、国籍の言い方(例:“我是○○人”)などの簡単なフレーズを暗記してください。
4. 文末に“吗”を置く疑問文と疑問詞、“哪”、“谁”を使う疑問詞の組み立て方を覚えてください。

参考文献

1. 『中日辞典(第2版)』(小学館)
2. 『中日大辞典(第3版)』愛知大学編集(大修館書店)
3. 『Why?に答えるはじめての中国語の文法書』(同学社)

評価基準

■レポート評価

- ・テキストをしっかりと読み、また付属CDを聴いてから、レポート作成をしてください。
- ・わからない単語、表現はテキストだけでなく、辞書も使って調べてください。
- ・他人のコピーと思われるものは評価の対象外です。努力の見られるレポートは高く評価します。

WH1120 外国語(中国語)1B

担当教員 董 丹犁 受講方法 SR

使用テキスト 配本年度

『中国語の贈り物』 山田留里子監修、金婷・斉金英・伊井健一郎著 (駿河台出版社)

2010年度～

科目概要

(中国語)1Aに引き続き、第3課～第6課の内容を通して中国語の基礎を覚える。
簡単な副詞、疑問数詞、年齢のたずね方、形容述語文の組み立て方、進行形のアスペクトなどを習得する。
(毎日60分間程度発音と基礎文法を予習、復習してください。)

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 中国語の基礎的な文の構造を理解する。
2. 基礎的な日常会話(誕生日の表現、家族の構成)ができる。

■科目の学習要点事項

1. 語彙は、必ず中国の漢字の書き方・読み方・意味を同時に覚えてください。
2. 副詞が文中における位置をよくチェックしてください。
3. 家族構成の表し方を習得し、異なる年代層に対する違った年齢の聞き方を正確に覚えてください。
4. 中国語には疑問詞を使う疑問文がありますが、日本語との違いは、疑問詞が入っているとそれだけで疑問文になり、文末には“吗”をつけません。日本語に引きずられないように気をつけましょう。

参考文献

1. 『中日辞典(第2版)』(小学館)
2. 『中日大辞典(第3版)』愛知大学編集(大修館書店)
3. 『Why?に答えるはじめての中国語の文法書』(同学社)

評価基準

■レポート評価

- ・テキストをしっかり読み、また付属CDを聴いてから、レポート作成をしてください。
- ・習得した単語や、文法、文型を駆使して、簡単な自己紹介文をまとめるのも評価のポイントになります。
- ・他人のコピーと思われるものは評価の対象外です。努力の見られるレポートは高く評価します。

WH1122	中国語1B
---------------	--------------

担当教員	董 丹犁	受講方法	SR
-------------	-------------	-------------	-----------

使用テキスト	配本年度
---------------	-------------

『中国語の贈り物』 山田留里子監修、金婷・齊金英・伊井健一郎著（駿河台出版社）

2019年度～

科目概要

(中国語)1Aに引き続き、第3課～第6課の内容を通して中国語の基礎を覚える。
簡単な副詞、疑問数詞、年齢のたずね方、形容述語文の組み立て方、進行形のアスペクトなどを習得する。
(毎日60分間程度発音と基礎文法を予習、復習してください。)

学習上の目標

- 科目の到達目標
 1. 中国語の基礎的な文の構造を理解する。
 2. 基礎的な日常会話(誕生日の表現、家族の構成)ができる。
- 科目の学習要点事項
 1. 語彙は、必ず中国の漢字の書き方・読み方・意味を同時に覚えてください。
 2. 副詞が文中における位置をよくチェックしてください。
 3. 家族構成の表し方を習得し、異なる年代層に対する違った年齢の聞き方を正確に覚えてください。
 4. 中国語には疑問詞を使う疑問文がありますが、日本語との違いは、疑問詞が入っているとそれだけで疑問文になり、文末には“吗”をつけません。日本語に引きずられないように気をつけましょう。

参考文献

1. 『中日辞典(第2版)』(小学館)
2. 『中日大辞典(第3版)』愛知大学編集(大修館書店)
3. 『Why?に答えるはじめての中国語の文法書』(同学社)

評価基準

- レポート評価
 - ・テキストをしっかり読み、また付属CDを聴いてから、レポート作成をしてください。
 - ・習得した単語や、文法、文型を駆使して、簡単な自己紹介文をまとめるのも評価のポイントになります。
 - ・他人のコピーと思われるものは評価の対象外です。努力の見られるレポートは高く評価します。

WH1130

外国語(中国語)2A

担当教員

董 丹犁

受講方法

SR

使用テキスト

配本年度

『中国語の贈り物』 山田留里子監修、金婷・斉金英・伊井健一郎著

2010年度～

科目概要

(中国語)1Bに引き続き、第7課～第9課の内容を通して発展的な文法機能、語彙、表現を学ぶ。
副詞、状態補語の用法などを習得する。(毎日90分間程度発音と文法ポイントを予習、復習してください。)

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 中国語の文の構成を理解する。
2. 基礎的な日常会話(自分が好きなこと、簡単な道の尋ね方、人の褒め方、遠慮した話し方など)ができる。
3. 慣用表現の実践的な運用能力を身につける。

■科目の学習要点事項

1. 課題をすすめるにあたり、必ず発音しながら自分のものにしてください。
2. 慣用句、語彙の数を少しずつ増やし、その語順のルールなどを学んでいきます。
3. 文法解釈を読んで、モデル文を理解した上で、自分で例文を作り、応用できるようにしてください。
4. 少しでも中国への関心を引き起こしてください。

参考文献

1. 『中日辞典(第2版)』(小学館)
2. 『中日大辞典(第3版)』愛知大学編集(大修館書店)
3. 『Why?に答えるはじめての中国語の文法書』(同学社)

評価基準

■レポート評価

- ・テキストをしっかり読み、また付属CDを聴いてから、レポート作成をしてください。
- ・習得した単語や、文法、句型を駆使して“自分が好きなこと”というテーマで平易な文をまとめるのも評価のポイントとなります。
- ・他人のコピーと思われるものは評価の対象外です。努力の見られるレポートは高く評価します。

WH1132

中国語2A

担当教員

董 丹犁

受講方法

SR

使用テキスト

配本年度

『中国語の贈り物』 山田留里子監修、金婷・斉金英・伊井健一郎著

2019年度～

科目概要

(中国語)1Bに引き続き、第7課～第9課の内容を通して発展的な文法機能、語彙、表現を学ぶ。
副詞、状態補語の用法などを習得する。(毎日90分間程度発音と文法ポイントを予習、復習してください。)

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 中国語の文の構成を理解する。
2. 基礎的な日常会話(自分が好きなこと、簡単な道の尋ね方、人の褒め方、遠慮した話し方など)ができる。
3. 慣用表現の実践的な運用能力を身につける。

■科目の学習要点事項

1. 課題をすすめるにあたり、必ず発音しながら自分のものにしてください。
2. 慣用句、語彙の数を少しずつ増やし、その語順のルールなどを学んで行きます。
3. 文法解釈を読んで、モデル文を理解した上で、自分で例文を作り、応用できるようにしてください。
4. 少しでも中国への関心を引き起こしてください。

参考文献

1. 『中日辞典(第2版)』(小学館)
2. 『中日大辞典(第3版)』愛知大学編集(大修館書店)
3. 『Why?に答えるはじめての中国語の文法書』(同学社)

評価基準

■レポート評価

- ・テキストをしっかり読み、また付属CDを聴いてから、レポート作成をしてください。
- ・習得した単語や、文法、文型を駆使して“自分が好きなこと”というテーマで平易な文をまとめるのも評価のポイントとなります。
- ・他人のコピーと思われるものは評価の対象外です。努力の見られるレポートは高く評価します。

WH1140

外国語(中国語)2B

担当教員

董 丹犁

受講方法

SR

使用テキスト

配本年度

『中国語の贈り物』 山田留里子監修、金婷・齊金英・伊井健一郎著 (駿河台出版社)

2010年度～

科目概要

(中国語)2Aに引き続き、第10課～第12課の内容を通して更に発展的な文法機能、語彙、表現を学ぶ。選択疑問文、比喩表現、介詞などを習得する。(毎日90分間程度発音と文法ポイントを予習、復習してください。)

学習上の目標

■科目の到達目標

1. やや複雑な中国文を習得する。
2. 比較的難しい会話(レストランでの注文、値段のたずね方、困ったときの援助を求める方法)ができる。

■科目の学習要点事項

1. 発音練習を十分に行ってから課題を進めてください。
2. 読み・書き・聞く・話すというこの四つの要素を偏らず身に付けるよう心がけてください。
3. 新しく取り上げられた文法問題を既に学んだ文型と比べ、その異同に注目して学んでください。
4. 習得した文法、文型で、多様な表現ができるように努めてください。
5. 1課～12課で学習した内容を振り返り、確認しながら復習してください。

参考文献

1. 『中日辞典(第2版)』(小学館)
2. 『中日大辞典(第3版)』愛知大学編集(大修館書店)
3. 『Why?に答えるはじめての中国語の文法書』(同学社)

評価基準

■レポート評価

- ・テキストをしっかり読み、また付属CDを聴いてから、レポート作成をしてください。
- ・習得した単語や、文法、文型を駆使して、与えられたいくつかのテーマの中から一つ選んで文をまとめるのも評価のポイントになります。
- ・他人のコピーと思われるものは評価の対象外です。努力の見られるレポートは高く評価します。

WH1142

中国語2B

担当教員

董 丹犁

受講方法

SR

使用テキスト

配本年度

『中国語の贈り物』 山田留里子監修、金婷・齊金英・伊井健一郎著（駿河台出版社）

2019年度～

科目概要

(中国語)2Aに引き続き、第10課～第12課の内容を通して更に発展的な文法機能、語彙、表現を学ぶ。選択疑問文、比喩表現、介詞などを習得する。(毎日90分間程度発音と文法ポイントを予習、復習してください。)

学習上の目標

■科目の到達目標

1. やや複雑な中国文を習得する。
2. 比較的難しい会話(レストランでの注文、値段のたずね方、困ったときの援助を求める方法)ができる。

■科目の学習要点事項

1. 発音練習を十分に行ってから課題を進めてください。
2. 読み・書き・聞く・話すというこの四つの要素を偏らず身に付けるよう心がけてください。
3. 新しく取り上げられた文法問題を既に学んだ文型と比べ、その異同に注目して学んでください。
4. 習得した文法、文型で、多様な表現ができるように努めてください。
5. 1課～12課で学習した内容を振り返り、確認しながら復習してください。

参考文献

1. 『中日辞典(第2版)』(小学館)
2. 『中日大辞典(第3版)』愛知大学編集(大修館書店)
3. 『Why?に答えるはじめての中国語の文法書』(同学社)

評価基準

■レポート評価

- ・テキストをしっかり読み、また付属CDを聴いてから、レポート作成をしてください。
- ・習得した単語や、文法、文型を駆使して、与えられたいくつかのテーマの中から一つ選んで文をまとめるのも評価のポイントになります。
- ・他人のコピーと思われるものは評価の対象外です。努力の見られるレポートは高く評価します。

使用テキスト

配本年度

『もっと知りたいフランス』 斎藤広信他著(駿河台出版社)

2014 年度～

科目概要

長い歴史と伝統そして豊かな文化を持っているフランスという国は、19 世紀半ばから日本との交流が始まりました。以来、日本はあらゆる面でフランスから大いに影響を受けてきました。逆に日本の影響といえば明治時代のジャポニスムぐらいでした。しかし、近年、フランスと日本の関係は様変わりしてきました。フランスが日本へ憧れを抱く(ポップカルチャーや日本食など)という構図です。それは、決して一過性のものではなくフランス自体が変貌しつつあるからでしょう。このような現代フランスの姿をさまざまな角度から知ることによって、国際的な視野を広げ、かつ、ものとのとらえ方の幅を豊かにすることを目指しましょう。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. フランスという国について、さまざまな面の知識を広める。
2. フランス人について考察する。
3. フランス語について考える。
4. 現代のフランスについて考察する

■ 科目の学習要点事項

1. フランスの地理や気候
2. フランスの歴史
3. フランス人の成り立ち
4. フランス語の成り立ちとその重要性。世界のなかのフランス語。
5. フランスの首都パリについて。
6. フランスの地方について。
7. フランス人の生活について(食文化やヴァカンスを中心に)。
8. 今のフランスの姿

参考文献

- ① 『パリ・フランスを知るための 44 章』梅本洋一他著 明石書店
- ② 『ほんとうのフランスがわかる本』ジュヌヴィエーヴ・ブラム著 原書房
- ③ 『変貌するフランス』西永良成著 NHK ブックス

評価基準

■ レポート評価

テキストおよび資料をもとに、自分の言葉を駆使して、テーマにそった自分の考えをいかに論理的にまとめているかどうかを中心に評価します。参考資料の有無やその引用のしかたも確認しますので、参考文献に関することは必ず明記してください。

■ 科目終了試験評価

テキストの内容を理解しているかどうか、また、レポート作成時に得た知識や考えをしっかりと習得しているかどうかを評価します。

使用テキスト

配本年度

『箸とチョッカラーことばと文化の日韓比較』任栄哲・井出里咲子著(大修館書店)

2019 年度～

科目概要

日本語と韓国語は文法的に非常に類似した言語といわれる。しかし、実際、日本語母語話者と韓国語母語話者が出会い、コミュニケーションを行っている場面では様々な誤解や摩擦が起こっている。当たり前のことが相手の観点から見ると、当たり前のことではなくなることに気づき、なぜそのようなことが起こるのか、その原因と背景を探ることが必要である。そこで、本科目では、韓国語と日本語の言語使用を取り上げ、そこに反映されている文化との関わりを考察することで、日韓のことばと文化における共通点と相違点を明らかにすることを旨とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 韓国・韓国語・韓国文化について、基礎的な知識を得る。
2. 韓国のことばと文化について考え、理解を深める。
3. 韓国語と日本語の類似点と相違点について考察する。

■ 科目の学習要点事項

1. 日韓のあいさつ
2. 日韓の言語行動
3. 日韓のコミュニケーションスタイル
4. 日韓の敬語表現と使用
5. 日韓の授受表現
6. 日韓の人間関係
7. 日韓の人称と呼称

参考文献

『ことばと文化の日韓比較—相互理解をめざして』斉藤明美著(世界思想社)

『応用言語学事典』小池生夫編(研究社出版)

『新版日本語教育事典』日本語教育学会編(大修館書店)

『異文化間コミュニケーション入門』西田ひろこ(創元社)

『ウチとソトの言語文化学』牧野誠一 (アルク)

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を理解し、テーマに沿った自分の考えをまとめているかどうかを中心に評価する。参考資料の有無やその引用の仕方も確認するので、参考文献に関することは必ず明記すること。

■ 科目終了試験評価

テキストの内容を理解しているかどうか、また、レポート作成時に得た知識や考えをしっかりと習得しているかどうかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『もっと知りたいフランス』 斎藤広信他著(駿河台出版社)

2014 年度～

科目概要

長い歴史と伝統そして豊かな文化を持っているフランスという国は、19 世紀半ばから日本との交流が始まりました。以来、日本はあらゆる面でフランスから大いに影響を受けてきました。逆に日本の影響といえば明治時代のジャポニスムぐらいでした。しかし、近年、フランスと日本の関係は様変わりしてきました。フランスが日本へ憧れを抱く(ポップカルチャーや日本食など)という構図です。それは、決して一過性のものではなくフランス自体が変貌しつつあるからでしょう。このような現代フランスの姿をさまざまな角度から知ることによって、国際的な視野を広げ、かつ、ものとのとらえ方の幅を豊かにすることを目指しましょう。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. フランスという国について、さまざまな面の知識を広める。
2. フランス人について考察する。
3. フランス語について考える。
4. 現代のフランスについて考察する。

■ 科目の学習要点事項

1. フランスの地理や気候
2. フランスの歴史
3. フランス人の成り立ち
4. フランス語の成り立ちとその重要性。世界のなかのフランス語。
5. フランスの首都パリについて。
6. フランスの地方について。
7. フランス人の生活について(食文化やヴァカンスを中心に)。
8. 今のフランスの姿

参考文献

- ① 『パリ・フランスを知るための 44 章』梅本洋一他著 明石書店
- ② 『ほんとうのフランスがわかる本』ジュヌヴィエーヴ・ブラム著 原書房
- ③ 『変貌するフランス』西永良成著 NHK ブックス

評価基準

■ レポート評価

テキストおよび資料をもとに、自分の言葉を駆使して、テーマにそった自分の考えをいかに論理的にまとめているかどうかを中心に評価します。参考資料の有無やその引用のしかたも確認しますので、参考文献に関することは必ず明記してください。

■ 科目終了試験評価

テキストの内容を理解しているかどうか、また、レポート作成時に得た知識や考えをしっかりと習得しているかどうかを評価します

使用テキスト

配本年度

『もっと知りたいフランス』 斎藤広信他著(駿河台出版社)

2019 年度～

科目概要

長い歴史と伝統そして豊かな文化を持っているフランスという国は、19 世紀半ばから日本との交流が始まりました。以来、日本はあらゆる面でフランスから大いに影響を受けてきました。逆に日本の影響といえば明治時代のジャポニスムぐらいでした。しかし、近年、フランスと日本の関係は様変わりしてきました。フランスが日本へ憧れを抱く(ポップカルチャーや日本食など)という構図です。それは、決して一過性のものではなくフランス自体が変貌しつつあるからでしょう。このような現代フランスの姿をさまざまな角度から知ることによって、国際的な視野を広げ、かつ、ものとのとらえ方の幅を豊かにすることを目指しましょう。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. フランスという国について、さまざまな面の知識を広める。
2. フランス人について考察する。
3. フランス語について考える。
4. 現代のフランスについて考察する

■ 科目の学習要点事項

1. フランスの地理や気候
2. フランスの歴史
3. フランス人の成り立ち
4. フランス語の成り立ちとその重要性。世界のなかのフランス語。
5. フランスの首都パリについて。
6. フランスの地方について。
7. フランス人の生活について(食文化やヴァカンスを中心に)。
8. 今のフランスの姿

参考文献

- ① 『パリ・フランスを知るための 44 章』梅本洋一他著 明石書店
- ② 『ほんとうのフランスがわかる本』ジュヌヴィエーヴ・ブラム著 原書房
- ③ 『変貌するフランス』西永良成著 NHK ブックス

評価基準

■ レポート評価

テキストおよび資料をもとに、自分の言葉を駆使して、テーマにそった自分の考えをいかに論理的にまとめているかどうかを中心に評価します。参考資料の有無やその引用のしかたも確認しますので、参考文献に関することは必ず明記してください。

■科目終了試験評価

テキストの内容を理解しているかどうか、また、レポート作成時に得た知識や考えをしっかりと習得しているかどうかを評価します。

『文化人類学を学ぶ人のために』 米山俊直・谷 泰編(世界思想社)

2010 年度～

科目概要

文化人類学は、人類の文化が極めて多様であることに注目して、それぞれの文化の特色・仕組み・成り立ち・歴史的变化などを調べるとともに、そうした文化を擁する人類とはどのような存在であるのかを明らかにしようとする学問です。この科目では、平易に書かれたテキストに基づいて、文化人類学の基本的な枠組みのなかから、「文化人類学の方法と視点」と「人類の生活様式の多様性」について学びます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 文化人類学の方法と視点を理解する。
2. 人類の多様な生活様式について認識を広げる。

■ 科目の学習要点事項

1. 対象としての人間社会
2. 方法としてのフィールドワーク
3. 多様な人間社会(狩猟採集民)
4. 多様な人間社会(牧畜民)
5. 多様な人間社会(農耕民)
6. 多様な人間社会(都市民)

参考文献

『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己編(ミネルヴァ書房)

『文化人類学[カレッジ版]』波平恵美子編(医学書院)

『文化人類学のレッスン:フィールドからの出発』奥野克巳・花渕馨也編(学陽書房)

評価基準

■ レポート評価

テキストを的確に要約することと、それに対する自分自身の見解を論理的に述べることが求められます。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験では、上記の到達目標がどの程度達成されているのかを測定します。テキストの理解度に加えて、それに対する自分自身の考えが論理的に展開されているかどうか問われます。

『文化人類学を学ぶ人のために』 米山俊直・谷 泰編(世界思想社)

2019 年度～

科目概要

文化人類学は、人類の文化が極めて多様であることに注目して、それぞれの文化の特色・仕組み・成り立ち・歴史的变化などを調べるとともに、そうした文化を擁する人類とはどのような存在であるのかを明らかにしようとする学問です。この科目では、平易に書かれたテキストに基づいて、文化人類学の基本的な枠組みのなかから、「文化人類学の方法と視点」と「人類の生活様式の多様性」について学びます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 文化人類学の方法と視点を理解する。
2. 人類の多様な生活様式について認識を広げる。

■ 科目の学習要点事項

1. 対象としての人間社会
2. 方法としてのフィールドワーク
3. 多様な人間社会(狩猟採集民)
4. 多様な人間社会(牧畜民)
5. 多様な人間社会(農耕民)
6. 多様な人間社会(都市民)

参考文献

『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己編(ミネルヴァ書房)

『文化人類学[カレッジ版]』波平恵美子編(医学書院)

『文化人類学のレッスン:フィールドからの出発』奥野克巳・花渕馨也編(学陽書房)

評価基準

■ レポート評価

テキストを的確に要約することと、それに対する自分自身の見解を論理的に述べることが求められます。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験では、上記の到達目標がどの程度達成されているのかを測定します。テキストの理解度に加えて、それに対する自分自身の考えが論理的に展開されているかどうか問われます。

『文化人類学を学ぶ人のために』米山俊直・谷 泰編(世界思想社)

2010年度～

科目概要

文化人類学は、人類の文化が極めて多様であることに注目して、それぞれの文化の特色・仕組み・成り立ち・歴史的变化などを調べるとともに、そうした文化を擁する人類とはどのような存在であるのかを明らかにしようとする学問です。この科目では、平易に書かれたテキストに基づいて、文化人類学の基本的な枠組みのなかから、「様々な文化を担う具体的な人間関係を知る」と「自文化中心主義的視点の克服」について学びます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 様々な文化を担う具体的な人間関係を知る。
2. 自文化中心主義的視点を克服する。

■ 科目の学習要点事項

1. 多様な人間関係(男と女)
2. 多様な人間関係(大人と子供)
3. 多様な人間関係(身内とよそ者)
4. 多様な人間関係(贈与と交換)
5. 多様な人間関係(まつりとまつりごと)
6. 自文化中心主義的視点の克服

参考文献

『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己編(ミネルヴァ書房)

『文化人類学[カレッジ版]』波平恵美子編(医学書院)

『文化人類学のレッスン:フィールドからの出発』奥野克巳・花渕馨也編(学陽書房)

評価基準

■ レポート評価

テキストを的確に要約することと、それに対する自分自身の見解を論理的に述べることが求められます。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験では、上記の到達目標がどの程度達成されているのかを測定します。テキストの理解度に加えて、それに対する自分自身の考えが論理的に展開されているかどうか問われます。

『文化人類学を学ぶ人のために』米山俊直・谷 泰編(世界思想社)

2019 年度～

科目概要

文化人類学は、人類の文化が極めて多様であることに注目して、それぞれの文化の特色・仕組み・成り立ち・歴史的变化などを調べるとともに、そうした文化を擁する人類とはどのような存在であるのかを明らかにしようとする学問です。この科目では、平易に書かれたテキストに基づいて、文化人類学の基本的な枠組みのなかから、「様々な文化を担う具体的な人間関係を知る」と「自文化中心主義的視点の克服」について学びます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 様々な文化を担う具体的な人間関係を知る。
2. 自文化中心主義的視点を克服する。

■ 科目の学習要点事項

1. 多様な人間関係(男と女)
2. 多様な人間関係(大人と子供)
3. 多様な人間関係(身内とよそ者)
4. 多様な人間関係(贈与と交換)
5. 多様な人間関係(まつりとまつりごと)
6. 自文化中心主義的視点の克服

参考文献

『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己編(ミネルヴァ書房)

『文化人類学[カレッジ版]』波平恵美子編(医学書院)

『文化人類学のレッスン:フィールドからの出発』奥野克巳・花渕馨也編(学陽書房)

評価基準

■ レポート評価

テキストを的確に要約することと、それに対する自分自身の見解を論理的に述べることが求められます。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験では、上記の到達目標がどの程度達成されているのかを測定します。テキストの理解度に加えて、それに対する自分自身の考えが論理的に展開されているかどうか問われます。

『教養の日本史 第2版』竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編(東京大学出版会)

2010年度～

科目概要

日本の歴史について、古代・中世の時代の特徴と、それぞれの時代の重要な事項について学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本の歴史についての基本的な知識を獲得する。
2. 日本の歴史についての知識を生かして、時代の特徴を考察する。
3. 日本の歴史について自ら積極的に調べる能力を養成する。
4. 日本の歴史について学び、現代や未来を考察することができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 日本古代史について、律令政治の確立と崩壊、大陸との外交、荘園制の形成、文化の特徴などについて学習する。
2. 日本中世史について、鎌倉幕府の成立と展開、民衆の生活、中国との外交、戦国大名の政治などについて学習する。

参考文献

『日本の歴史』(中公文庫 全26巻)

評価基準

■ レポート評価

テキストを参照しつつ、自らできるだけ調べて論述したレポートを評価する。自らの意見を付け加えてもよい。

■ 科目終了試験評価

基礎的な学習事項を理解し、出された問題に的確に答えているかどうかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『教養の日本史 第2版』竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編(東京大学出版会)

2019 年度～

科目概要

日本の歴史について、古代・中世の時代の特徴と、それぞれの時代の重要な事項について学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本の歴史についての基本的な知識を獲得する。
2. 日本の歴史についての知識を生かして、時代の特徴を考察する。
3. 日本の歴史について自ら積極的に調べる能力を養成する。
4. 日本の歴史について学び、現代や未来を考察することができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 日本古代史について、律令政治の確立と崩壊、大陸との外交、荘園制の形成、文化の特徴などについて学習する。
2. 日本中世史について、鎌倉幕府の成立と展開、民衆の生活、中国との外交、戦国大名の政治などについて学習する。

参考文献

『日本の歴史』(中公文庫 全 26 巻)

評価基準

■ レポート評価

テキストを参照しつつ、自らできるだけ調べて論述したレポートを評価する。自らの意見を付け加えてもよい。

■ 科目終了試験評価

基礎的な学習事項を理解し、出された問題に的確に答えているかどうかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『教養の日本史 第2版』竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編(東京大学出版会)

2010年度～

科目概要

日本の歴史について、近世・近代の時代の特徴と、それぞれの時代の重要な事項について学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本の歴史についての基本的な知識を獲得する。
2. 日本の歴史についての知識を生かして、時代の特徴を考察する。
3. 日本の歴史について自ら積極的に調べる能力を養成する。
4. 日本の歴史について学び、現代や未来を考察することができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 日本近世史について、幕藩制度の確立、鎖国、三大改革、田沼政治、文化の特徴などについて学習する。
2. 日本近代史について、明治維新、自由民権運動、対外戦争と外交政策、戦時体制の形成、戦後改革と民主主義の成立、戦後社会の変化などについて学習する。

参考文献

『日本の歴史』(中公文庫 全26巻)

評価基準

■ レポート評価

テキストを参照しつつ、自らできるだけ調べて論述したレポートを評価する。自らの意見を付け加えてもよい。

■ 科目終了試験評価

基礎的な学習事項を理解し、出された問題に的確に答えているかどうかを評価する。

『教養の日本史 第2版』竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編(東京大学出版会)

2019 年度～

科目概要

日本の歴史について、近世・近代の時代の特徴と、それぞれの時代の重要な事項について学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本の歴史についての基本的な知識を獲得する。
2. 日本の歴史についての知識を生かして、時代の特徴を考察する。
3. 日本の歴史について自ら積極的に調べる能力を養成する。
4. 日本の歴史について学び、現代や未来を考察することができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 日本近世史について、幕藩制度の確立、鎖国、三大改革、田沼政治、文化の特徴などについて学習する。
2. 日本近代史について、明治維新、自由民権運動、対外戦争と外交政策、戦時体制の形成、戦後改革と民主主義の成立、戦後社会の変化などについて学習する。

参考文献

『日本の歴史』(中公文庫 全 26 巻)

評価基準

■ レポート評価

テキストを参照しつつ、自らできるだけ調べて論述したレポートを評価する。自らの意見を付け加えてもよい。

■ 科目終了試験評価

基礎的な学習事項を理解し、出された問題に的確に答えているかどうかを評価する。

『詳説 世界史研究』木村靖二・岸本美緒・小松久男(山川出版社)

2019 年度～

科目概要

<キリスト教を通して知る古代ヨーロッパ史> ヨーロッパの歴史はキリスト教の発展と密接な関係を持っているので、ヨーロッパを良く理解する為にはキリスト教の知識が必要である。当科目では、主としてユダヤ人(ヘブライ人)の歴史、キリスト教の成立、ローマ帝国の迫害と公認等の歴史を通して古代ヨーロッパの歴史を学習する。現在、キリスト教史や古代ローマ帝国に関する書籍は多く出版されている。下記の「学習上の目標」を達するためには、学習の過程でわからないことが生じたり、あるいは詳細に知りたい部分が出てきたりした際、インターネットによる書籍検索のシステムなどを使って、積極的に関連する書籍を見つけ、手に取り、疑問を解消していくことが必要である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ユダヤ人(ヘブライ人)の歴史と宗教についての基礎的知識を習得する。
2. キリスト教に関する基礎的知識を習得する。
3. キリスト教を通して古代ヨーロッパの歴史を理解することができる。
4. 過去の出来事を歴史的観点から調べる方法など、学習技術を得ることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. ユダヤ人(ヘブライ人)の歴史とユダヤ教について学習する。
2. イエスが生まれた時代のユダヤの歴史的状況を学習する。
3. イエスの生涯と教えについて学習する。
4. キリスト教会の発展と神学論争について学習する。
5. イエスが生まれた時代および滅亡に至るローマ帝国について学習する。
6. ローマ帝国によるキリスト教迫害とキリスト教公認について学習する。

参考文献

『世界の歴史』第2・4巻(中公文庫)

『世界宗教史叢書4 ユダヤ教史』石田友雄(山川出版社)

『世界宗教史叢書1 キリスト教史1』半田元夫・今野國雄(山川出版社)

『キリスト教一千年史(上)、(下):地域とテーマで読む』ロバート・ルイス・ウィルケン(大谷哲・小坂俊介・津田拓郎・青柳寛俊 訳)(白永社)

評価基準

■ レポート評価

テキストや参考文献を参照しながら、歴史地図・年表やインターネット等でできる限り自ら調べてまとめたレポートを評価する。

■ 科目終了試験評価

科目の到達目標を評価基準とし、試験の課題に対する論述の精度を判断して、優(80～100点)、良(70～79点)、可(60～69点以上)の評価を行う。

『詳説 世界史研究』木村靖二・岸本美緒・小松久男(山川出版社)

2019 年度～

科目概要

<キリスト教を通して知る古代ヨーロッパ史> ヨーロッパの歴史はキリスト教の発展と密接な関係を持っているので、ヨーロッパを良く理解する為にはキリスト教の知識が必要である。当科目では、主としてユダヤ人(ヘブライ人)の歴史、キリスト教の成立、ローマ帝国の迫害と公認等の歴史を通して古代ヨーロッパの歴史を学習する。現在、キリスト教史や古代ローマ帝国に関する書籍は多く出版されている。下記の「学習上の目標」を達するためには、学習の過程でわからないことが生じたり、あるいは詳細に知りたい部分が出てきたりした際、インターネットによる書籍検索のシステムなどを使って、積極的に関連する書籍を見つけ、手に取り、疑問を解消していくことが必要である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ユダヤ人(ヘブライ人)の歴史と宗教についての基礎的知識を習得する。
2. キリスト教に関する基礎的知識を習得する。
3. キリスト教を通して古代ヨーロッパの歴史を理解することができる。
4. 過去の出来事を歴史的観点から調べる方法など、学習技術を得ることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. ユダヤ人(ヘブライ人)の歴史とユダヤ教について学習する。
2. イエスが生まれた時代のユダヤの歴史的状況を学習する。
3. イエスの生涯と教えについて学習する。
4. キリスト教会の発展と神学論争について学習する。
5. イエスが生まれた時代および滅亡に至るローマ帝国について学習する。
6. ローマ帝国によるキリスト教迫害とキリスト教公認について学習する。

評価基準

■ レポート評価

テキストや参考文献を参照しながら、歴史地図・年表やインターネット等でできる限り自ら調べてまとめたレポートを評価する。

■ 科目終了試験評価

科目の到達目標を評価基準とし、試験の課題に対する論述の精度を判断して、優(80～100点)、良(70～79点)、可(60～69点)の評価を行う。

『詳説 世界史研究』木村靖二・岸本美緒・小松久男(山川出版社)

2019 年度～

科目概要

<キリスト教を通して知るヨーロッパ史> ヨーロッパの歴史はキリスト教の発展と密接な関係を持っているので、ヨーロッパを良く理解する為にはキリスト教の知識が必要である。当科目では、主としてヨーロッパ中世から近代に至るキリスト教の歴史を通してヨーロッパの歴史を概説する。現在、中世及び近世ヨーロッパ史に関する書籍は、多く出版されている。下記の「学習上の目標」を達成するためには、学習の過程でわからないことが生じたり、あるいは詳細に知りたい部分が出てきたりした際、インターネットによる書籍検索のシステムなどを使って、積極的に関連書籍を見つけ、手に取り、疑問を解消していくことが必要である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. キリスト教に関する基礎的知識を習得する。
2. キリスト教を通して中世から近代ヨーロッパの歴史を理解することができる。
3. 過去の出来事を歴史的観点から調べる方法など、学習技術を得ることができる。
4. ヨーロッパ文化を宗教的観点から理解することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. ローマ・カトリック教会の発展とフランク王国との関係を学習する。
2. シャルルマーニュの戴冠とその治世について学習する。
3. 聖職叙任闘争の原因、経過、結果について学習する。
4. 十字軍について学習する。
5. 修道院について学習する。
6. アナニ事件と教会大分裂(シスマ)について学習する。
7. 中世キリスト教文化について学習する。
8. コンスタンツ宗教会議について学習する。
9. ルターの宗教改革について学習する。
10. カルヴァンの宗教改革について学習する。
11. イングランド宗教改革について学習する。

参考文献

『世界の歴史』第10・16巻(中公文庫)

『世界宗教史叢書1 キリスト教史1』半田元夫・今野國雄(山川出版社)

『世界宗教史叢書2 キリスト教史2』半田元夫・今野國雄(山川出版社)

『宗教改革—ルター、カルヴァンとプロテスタントたち』(「知の再発見」双書)オリヴィエ・クリスタン著(創元社、1998年)

評価基準

■レポート評価

テキストや参考文献を参照しながら、歴史地図・年表やインターネット等のできる限り自ら調べてまとめたレポートを評価する。

■科目終了試験評価

科目の到達目標を評価基準とし、試験の課題に対する記述の精度を判断して優(80～100点)、良(70～79点)、可(60～69点)の評価を行う。

『詳説世界史研究』木村靖二・岸本美緒・小松久男(山川出版社)

2019 年度～

科目概要

＜キリスト教を通して知るヨーロッパ史＞ ヨーロッパの歴史はキリスト教の発展と密接な関係を持っているので、ヨーロッパを良く理解する為にはキリスト教の知識が必要である。当科目では、主としてヨーロッパ中世から近代に至るキリスト教の歴史を通してヨーロッパの歴史を概説する。現在、中世及び近世ヨーロッパ史に関する書籍は、多く出版されている。下記の「学習上の目標」を達成するためには、学習の過程でわからないことが生じたり、あるいは詳細に知りたい部分が出てきたりした際、インターネットによる書籍検索のシステムなどを使って、積極的に関連書籍を見つけ、手に取り、疑問を解消していくことが必要である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. キリスト教に関する基礎的知識を習得する。
2. キリスト教を通して中世から近代ヨーロッパの歴史を理解することができる。
3. 過去の出来事を歴史的観点から調べる方法など、学習技術を得ることができる。
4. ヨーロッパ文化を宗教的観点から理解することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. ローマ・カトリック教会の発展とフランク王国との関係を学習する。
2. シャルルマーニュの戴冠とその治世について学習する。
3. 聖職叙任闘争の原因、経過、結果について学習する。
4. 十字軍について学習する。
5. 修道院について学習する。
6. アナニ事件と教会大分裂(シスマ)について学習する。
7. 中世キリスト教文化について学習する。
8. コンスタンツ宗教会議について学習する。
9. ルターの宗教改革について学習する。
10. カルヴァンの宗教改革について学習する。
11. イングランド宗教改革について学習する。

参考文献

『世界の歴史』第10・16巻(中公文庫)

『世界宗教史叢書1 キリスト教史1』半田元夫・今野國雄(山川出版社)

『世界宗教史叢書2 キリスト教史2』半田元夫・今野國雄(山川出版社)

『宗教改革—ルター、カルヴァンとプロテスタントたち』(「知の再発見」双書)オリヴィエ・クリスタン著(創元社、1998年)

評価基準

■レポート評価

テキストや参考文献を参照しながら、歴史地図・年表やインターネット等のできる限り自ら調べてまとめたレポートを評価する。

■科目終了試験評価

科目の到達目標を評価基準とし、試験の課題に対する記述の精度を判断して優(80～100点)、良(70～79点)、可(60～69点)の評価を行う。

使用テキスト

配本年度

『これからの「正義」の話をしよう——いまを生き延びるための哲学』
マイケル・サンデル(早川書房)

2011年度～

科目概要

現代を代表する政治哲学者であるマイケル・サンデルが執筆した世界的ベストセラーの名著を読み込むことで、現代政治や社会を取り巻く様々な問題に正面から向き合い、自分なりの考えを身につける。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代の政治や社会をめぐる諸問題への関心を高める。
2. 主要な政治思想への理解を深める。
3. 本書の読解をきっかけにして、政治学上の古典や名著にも手を伸ばしてみるようになることが望まれる。

■ 科目の学習要点事項

1. 「正しいこと」とは何か
2. 功利主義
3. リバタリアニズム
4. 市場と倫理
5. カント哲学

参考文献

『政治学(補訂版)』久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治(有斐閣、2011年)

『現代政治理論』川崎修・杉田敦編著(有斐閣、2006年)

『政治学の名著30』佐々木毅(ちくま新書、2007年)

評価基準

■ レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストの記述を下敷きとしつつも、自分なりの考察や分析を積極的に述べることが望まれる。

■ 科目終了試験評価

試験はテキストから出題されるので、試験範囲(テキストの第1～5章)を熟読し、内容をきちんと理解してから試験に臨むこと。

使用テキスト

配本年度

『これからの「正義」の話をしよう——いまを生き延びるための哲学』
マイケル・サンデル(早川書房)

2019 年度～

科目概要

現代を代表する政治哲学者であるマイケル・サンデルが執筆した世界的ベストセラーの名著を読み込むことで、現代政治や社会を取り巻く様々な問題に正面から向き合い、自分なりの考えを身につける。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代の政治や社会をめぐる諸問題への関心を高める。
2. 主要な政治思想への理解を深める。
3. 本書の読解をきっかけにして、政治学上の古典や名著にも手を伸ばしてみるようになることが望まれる。

■ 科目の学習要点事項

1. 「正しいこと」とは何か
2. 功利主義
3. リバタリアニズム
4. 市場と倫理
5. カント哲学

参考文献

『政治学(補訂版)』久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治(有斐閣、2011年)

『現代政治理論』川崎修・杉田敦編著(有斐閣、2006年)

『政治学の名著30』佐々木毅(ちくま新書、2007年)

評価基準

■ レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストの記述を下敷きとしつつも、自分なりの考察や分析を積極的に述べることが望まれる。

■ 科目終了試験評価

試験はテキストから出題されるので、試験範囲(テキストの第1～5章)を熟読し、内容をきちんと理解してから試験に臨むこと。

『これからの「正義」の話をしよう——いまを生き延びるための哲学』

マイケル・サンデル(早川書房)

2011年度～

科目概要

現代を代表する政治哲学者であるマイケル・サンデルが執筆した世界的ベストセラーの名著を読み込むことで、現代政治や社会を取り巻く様々な問題に正面から向き合い、自分なりの考えを身につける。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代の政治や社会をめぐる諸問題への関心を高める。
2. 主要な政治思想への理解を深める。
3. 本書の読解をきっかけにして、政治学上の古典や名著にも手を伸ばしてみるようになることが望まれる。

■ 科目の学習要点事項

1. ジョン・ロールズ
2. 格差是正措置
3. アリストテレス
4. コミュニタリアン
5. 正義と共通善

参考文献

『政治学(補訂版)』久米郁男・古城佳子・真渕勝・川出良枝・田中愛治(有斐閣、2011年)

『現代政治理論』川崎修・杉田敦編著(有斐閣、2006年)

『政治学の名著30』佐々木毅(ちくま新書、2007年)

評価基準

■ レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストの記述を下敷きとしつつも、自分なりの考察や分析を積極的に述べることが望まれる。

■ 科目終了試験評価

試験はテキストから出題されるので、試験範囲(テキストの第6～10章)を熟読し、内容をきちんと理解してから試験に臨むこと。

使用テキスト

配本年度

『これからの「正義」の話をしよう——いまを生き延びるための哲学』
マイケル・サンデル(早川書房)

2019 年度～

科目概要

現代を代表する政治哲学者であるマイケル・サンデルが執筆した世界的ベストセラーの名著を読み込むことで、現代政治や社会を取り巻く様々な問題に正面から向き合い、自分なりの考えを身につける。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代の政治や社会をめぐる諸問題への関心を高める。
2. 主要な政治思想への理解を深める。
3. 本書の読解をきっかけにして、政治学上の古典や名著にも手を伸ばしてみるようになることが望まれる。

■ 科目の学習要点事項

1. ジョン・ロールズ
2. 格差是正措置
3. アリストテレス
4. コミュニタリアン
5. 正義と共通善

参考文献

『政治学(補訂版)』久米郁男・古城佳子・真淵勝・川出良枝・田中愛治(有斐閣、2011 年)

『現代政治理論』川崎修・杉田敦編著(有斐閣、2006 年)

『政治学の名著 30』佐々木毅(ちくま新書、2007 年)

評価基準

■ レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストの記述を下敷きとしつつも、自分なりの考察や分析を積極的に述べることが望まれる。

■ 科目終了試験評価

試験はテキストから出題されるので、試験範囲(テキストの第6～10章)を熟読し、内容をきちんと理解してから試験に臨むこと。

使用テキスト

配本年度

『国際政治学』 中西寛・石田淳・田所昌幸(有斐閣、2013年)

2016年度～

科目概要

国際政治学／国際関係論における重要テーマを幅広く扱ったテキストを精読することによって、国際関係の理論や歴史、現代的課題を掘り下げて学び、混沌とした国際社会を見る眼を養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 変化のスピードが速い世界情勢に対して、自分なりの見方ができるようになる。
2. 自分が関心を持った国際問題に関して、本・新聞・雑誌やインターネット情報などを活用し、自主的なリサーチを行う習慣を身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. 分析の枠組み
2. 理論的見取り図
3. 歴史的視角
4. 対外政策

参考文献

『新・国際政治経済の基礎知識』[新版] 田中明彦・中西寛(有斐閣、2010年)

『名著に学ぶ国際関係論』[第2版] 花井等・石井貫太郎(有斐閣、2009年)

『国際紛争:理論と歴史』ジョセフ・ナイ、デイヴィッド・A・ウェルチ著 田中明彦・村田晃嗣訳(有斐閣、2013年)

評価基準

■ レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストや参考文献の説明を下敷きにしつつも、自分なりのリサーチや分析を積極的に行うことが望まれる。

■ 科目終了試験評価

試験はテキスト(『国際政治学』)のなかから出題され、レポート課題として取り上げた部分以外から出題されることもあるので、試験範囲(序章～第3章)を熟読してから試験に臨むこと。テキストの記述を踏まえることなく、ただ自分の意見や感想ばかり書いても評価はされない。

使用テキスト

配本年度

『国際政治学』 中西寛・石田淳・田所昌幸(有斐閣、2013年)

2019年度～

科目概要

国際政治学／国際関係論における重要テーマを幅広く扱ったテキストを精読することによって、国際関係の理論や歴史、現代的課題を掘り下げて学び、混沌とした国際社会を見る眼を養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 変化のスピードが速い世界情勢に対して、自分なりの見方ができるようになる。
2. 自分が関心を持った国際問題に関して、本・新聞・雑誌やインターネット情報などを活用し、自主的なリサーチを行う習慣を身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. 分析の枠組み
2. 理論的見取り図
3. 歴史的視角
4. 対外政策

参考文献

『新・国際政治経済の基礎知識』[新版] 田中明彦・中西寛(有斐閣、2010年)

『名著に学ぶ国際関係論』[第2版] 花井等・石井貫太郎(有斐閣、2009年)

『国際紛争:理論と歴史』ジョセフ・ナイ、デイヴィッド・A・ウェルチ著 田中明彦・村田晃嗣訳(有斐閣、2013年)

評価基準

■ レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストや参考文献の説明を下敷きにしつつも、自分なりのリサーチや分析を積極的に行うことが望まれる。

■ 科目終了試験評価

試験はテキスト(『国際政治学』)のなかから出題され、レポート課題として取り上げた部分以外から出題されることもあるので、試験範囲(序章～第3章)を熟読してから試験に臨むこと。テキストの記述を踏まえることなく、ただ自分の意見や感想ばかり書いても評価はされない。

使用テキスト

配本年度

『国際政治学』 中西寛・石田淳・田所昌幸(有斐閣、2013年)

2016年度～

科目概要

国際政治学／国際関係論における重要テーマを幅広く扱ったテキストを精読することによって、国際関係の理論や歴史、現代的課題を掘り下げて学び、混沌とした国際社会を見る眼を養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 変化のスピードが速い世界情勢に対して、自分なりの見方ができるようになる。
2. 自分が関心を持った国際問題に関して、本・新聞・雑誌やインターネット情報などを活用し、自主的なリサーチを行う習慣を身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. 国際秩序
2. 安全保障
3. 国際政治経済
4. 越境的世界

参考文献

『新・国際政治経済の基礎知識』[新版] 田中明彦・中西寛(有斐閣、2010年)

『名著に学ぶ国際関係論』[第2版] 花井等・石井貫太郎(有斐閣、2009年)

『国際紛争:理論と歴史』ジョセフ・ナイ、デイヴィッド・A・ウェルチ著 田中明彦・村田晃嗣訳(有斐閣、2013年)

評価基準

■ レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストや参考文献の説明を下敷きにしつつも、自分なりのリサーチや分析を積極的に行うことが望まれる。

■ 科目終了試験評価

試験はテキスト(『国際政治学』)のなかから出題され、レポート課題として取り上げた部分以外から出題されることもあるので、試験範囲(第4章～第7章)を熟読してから試験に臨むこと。テキストの記述を踏まえることなく、ただ自分の意見や感想ばかり書いても評価はされない。

使用テキスト

配本年度

『国際政治学』 中西寛・石田淳・田所昌幸(有斐閣、2013年)

2019年度～

科目概要

国際政治学／国際関係論における重要テーマを幅広く扱ったテキストを精読することによって、国際関係の理論や歴史、現代的課題を掘り下げて学び、混沌とした国際社会を見る眼を養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 変化のスピードが速い世界情勢に対して、自分なりの見方ができるようになる。
2. 自分が関心を持った国際問題に関して、本・新聞・雑誌やインターネット情報などを活用し、自主的なリサーチを行う習慣を身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. 国際秩序
2. 安全保障
3. 国際政治経済
4. 越境的世界

参考文献

『新・国際政治経済の基礎知識』[新版] 田中明彦・中西寛(有斐閣、2010年)

『名著に学ぶ国際関係論』[第2版] 花井等・石井貫太郎(有斐閣、2009年)

『国際紛争:理論と歴史』ジョセフ・ナイ、デイヴィッド・A・ウェルチ著 田中明彦・村田晃嗣訳(有斐閣、2013年)

評価基準

■ レポート評価

レポート作成にあたっては、テキストや参考文献の説明を下敷きにしつつも、自分なりのリサーチや分析を積極的に行うことが望まれる。

■ 科目終了試験評価

試験はテキスト(『国際政治学』)のなかから出題され、レポート課題として取り上げた部分以外から出題されることもあるので、試験範囲(第4章～第7章)を熟読してから試験に臨むこと。テキストの記述を踏まえることなく、ただ自分の意見や感想ばかり書いても評価はされない。

使用テキスト

配本年度

『生涯学習概論』 神山敬章・高島秀樹編(明星大学出版部)

2010 年度～

科目概要

日本の教育行政・施策は1987年の臨時教育審議会答申以降、生涯学習体系に移行した。その後、教育改革が進み、今日の教育行政がある。日本の生涯学習論の展開より、現代の生涯学習・社会教育のあり方を、法・理論・事例より学習するものである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 生涯教育から生涯学習への進展を理解する。
2. 生涯学習体系について学ぶ。
3. 生涯学習のあり方について理解を深める。
4. 教育法規を理解する。
5. 生涯学習の方法と評価について理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 生涯教育・社会教育と生涯学習について
2. 生涯学習政策について
3. 生涯学習と生涯発達について
4. 社会変動と生涯学習について
5. 多様な学習方法と学習成果の活用・評価について

参考文献

- 『生涯学習・社会教育行政必携』生涯学習・社会教育行政研究会編(第一法規)
『社会教育計画の基礎[新版]』 鈴木眞理・山本珠美・熊谷愼之輔編著(学文社)
『社会教育の現代的課題』 高島秀樹・神山敬章編(明星大学出版部)
『生涯学習と開かれた施設活動』 大堀哲・齋藤慶三郎・村田文生著(学文社)

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を理解しまとめる。1,500字以上で参考文献を活用し、持論を交えまとめているか判断する。

■ 科目終了試験評価

問題はテキストに即して出題しているので、レポート課題、参考文献も活用し学習すること。論述の内容と方法によって評価する。

使用テキスト

配本年度

『生涯学習概論』 神山敬章・高島秀樹編(明星大学出版部)

2019 年度～

科目概要

日本の教育行政・施策は1987年の臨時教育審議会答申以降、生涯学習体系に移行した。その後、教育改革が進み、今日の教育行政がある。日本の生涯学習論の展開より、現代の生涯学習・社会教育のあり方を、法・理論・事例より学習するものである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 生涯教育から生涯学習への進展を理解する。
2. 生涯学習体系について学ぶ。
3. 生涯学習のあり方について理解を深める。
4. 教育法規を理解する。
5. 生涯学習の方法と評価について理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 生涯教育・社会教育と生涯学習について
2. 生涯学習政策について
3. 生涯学習と生涯発達について
4. 社会変動と生涯学習について
5. 多様な学習方法と学習成果の活用・評価について

参考文献

- 『生涯学習・社会教育行政必携』生涯学習・社会教育行政研究会編(第一法規)
『社会教育計画の基礎[新版]』 鈴木眞理・山本珠美・熊谷愼之輔編著(学文社)
『社会教育の現代的課題』 高島秀樹・神山敬章編(明星大学出版部)
『生涯学習と開かれた施設活動』 大堀哲・齋藤慶三郎・村田文生著(学文社)

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を理解しまとめる。1,500字以上で参考文献を活用し、持論を交えまとめているか判断する。

■ 科目終了試験評価

問題はテキストに即して出題しているので、レポート課題、参考文献も活用し学習すること。論述の内容と方法によって評価する。

使用テキスト

配本年度

『生涯学習概論』 神山敬章・高島秀樹編(明星大学出版部)

2010 年度～

科目概要

日本の教育行政・施策は 1987 年の臨時教育審議会答申以降、生涯学習体系に移行した。その後、教育改革が進み、今日の教育行政がある。日本の生涯学習論の展開より、現代の生涯学習・社会教育のあり方を、法・理論・事例より学習するものである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 生涯にわたる学習・スポーツの内容を理解する。
2. 生涯学習の現況を把握し理解を深める。
3. 生涯学習における社会教育のあり方を理解する。
4. 社会教育の各事業について理解を深める。
5. 生涯学習の現状と課題を学習する。

■ 科目の学習要点事項

1. 生涯学習政策について
2. 生涯学習の現況について
3. 社会教育の現状と課題について
4. 生涯学習関連施設の現状と課題について
5. 生涯学習の現代的課題について

参考文献

- 『生涯学習・社会教育行政必携』生涯学習・社会教育行政研究会編(第一法規)
『社会教育計画の基礎[新版]』 鈴木真理・山本珠美・熊谷愼之輔編著(学文社)
『社会教育の現代的課題』 高島秀樹・神山敬章編(明星大学出版部)
『生涯学習と開かれた施設活動』 大堀哲・齋藤慶三郎・村田文生著(学文社)

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を理解しまとめる。1,500 字以上で参考文献を活用し、持論を交えまとめているか判断する。

■ 科目終了試験評価

問題はテキストに即して出題しているので、レポート課題、参考文献も活用し学習すること。論述の内容と方法によって評価する。

使用テキスト

配本年度

『生涯学習概論』 神山敬章・高島秀樹編(明星大学出版部)

2019 年度～

科目概要

日本の教育行政・施策は 1987 年の臨時教育審議会答申以降、生涯学習体系に移行した。その後、教育改革が進み、今日の教育行政がある。日本の生涯学習論の展開より、現代の生涯学習・社会教育のあり方を、法・理論・事例より学習するものである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 生涯にわたる学習・スポーツの内容を理解する。
2. 生涯学習の現況を把握し理解を深める。
3. 生涯学習における社会教育のあり方を理解する。
4. 社会教育の各事業について理解を深める。
5. 生涯学習の現状と課題を学習する。

■ 科目の学習要点事項

1. 生涯学習政策について
2. 生涯学習の現況について
3. 社会教育の現状と課題について
4. 生涯学習関連施設の現状と課題について
5. 生涯学習の現代的課題について

参考文献

- 『生涯学習・社会教育行政必携』生涯学習・社会教育行政研究会編(第一法規)
『社会教育計画の基礎[新版]』 鈴木眞理・山本珠美・熊谷愼之輔編著(学文社)
『社会教育の現代的課題』 高島秀樹・神山敬章編(明星大学出版部)
『生涯学習と開かれた施設活動』 大堀哲・齋藤慶三郎・村田文生著(学文社)

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を理解しまとめる。1,500 字以上で参考文献を活用し、自論を交えまとめているか判断する。

■ 科目終了試験評価

問題はテキストに即して出題しているので、レポート課題、参考文献も活用し学習すること。論述の内容と方法によって評価する。

使用テキスト

配本年度

『図書館の基礎と展望』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望1)二村健著、学文社 2020年度～

科目概要

社会における図書館の意義について理解を図り、図書館の現状、機能、歴史、種類、利用者、職員、類縁機関との関係、今後の課題について学習し、考察することが重要である。加えて、ライブラリアンシップを身につけるための第一歩として図書館員としてという意識を育てて欲しい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 図書館そのもの、意義について理解する。
2. 図書館の簡単な歴史(発展史)について理解する。
3. 図書館の重要な理念(例えば、図書館の自由、関連法規、基準等)について理解する。
4. 図書館を活用する様々な仕掛けや工夫について理解する。
5. 図書館の種類(館種)について理解する。
6. 情報社会における図書館の新たな役割について理解する。
7. 図書館員としてのライブラリアンシップを身につけるための一歩を踏み出す。

■ 科目の学習要点事項

1. 図書館の伝統的・教科書的業務モデル(収集、組織化、保存、提供)
2. 「図書館とは施設・建物ではなくサービスである」ということ
3. 図書館の種類(国立、公共、大学、学校、専門と電子図書館)
4. 図書館を活用するための道具立て(分類、目録、情報検索、HP など)
5. 図書館の基本的な機能(教育機能と情報提供機能)
6. 中小レポート、市民の図書館、各図書館・自治体の図書館施策・計画
7. 図書館の課題、インターネット、電子書籍、新たなサービス

参考文献

テキストの各章毎に、参考文献を記載しているので必要に応じて参照すること。

また、それらに加え下記の図書も挙げておく。

- ①『浦安図書館にできること』常世田良著(勁草書房)
- ②ビデオ『図書館へ行こう！インターネット時代の情報活用入門』(紀伊國屋書店)

■レポート評価

誰でも図書館についてはある種の「想い」を持っているが、レポートはそれを吐き出す場所ではない。図書館について大学で学ぶのは、これまで多くの先人が長年月の経験から得た知見や、学問的に追求され人々が承認した一定の成果を学ぶのである。したがって、レポート課題に対しては、テキストや参考文献を多く用いて客観的に論述することが求められる。その上で、自分の意見が求められた場合には、誰もが納得する根拠の上に自分の意見を組み立てることを心がけること。

テキストの引き写し(引用の範囲を超えているもの)、インターネットサイト上からの引き写し(引用の範囲を超えているもの)は評価の対象外となることは言うまでもない。

■科目終了試験評価

図書館の分野には他に見られない専門用語が少なからずあるので、この用語の理解があるかないかが、まず、課題となる。したがって、出題の意図を理解し重要語(キーワード)を思い浮かべ、それを適切に説明できるかどうかが大きく評価を左右することになる。

使用テキスト

配本年度

『これだけはおさえない確率統計』塚田真一著(実教出版)

2015 年度～

科目概要

統計学の基礎を理解し、身のまわりにあるデータを、統計の方法を使って分析することを目的とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. データの平均 \bar{x} や、散らばり度合いの分散 S^2 、標準偏差 S の意味を理解し、それらを計算で求めることができる。
2. x と y の相関について調べ、相関係数を実際に求められる。
3. 回帰直線を理解し、実際に計算で求められる。
4. 正規分布、標準正規分布、標準化(規準化)についての理解と正規分布の確率を求められる。

■ 科目の学習要点事項

1単位目

1. 度数分布で表されている場合と、分類されていない場合のデータについて、データの平均 \bar{x} 、分散 S^2 、標準偏差 S を計算する。
2. 2つの変数の関係を相関図や相関係数を求めて調べる。

2単位目

1. 2つの変数の関係を、回帰直線を求めて調べる。
2. 標準化(規準化)を利用する。

参考文献

『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会)

『実践のための基礎統計学』下川 敏雄著(講談社)

『はじめての統計学』鳥居泰彦 著(日本経済新聞出版)

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、答のみ示すのではなく、その主な計算過程を必ず示すこと。そして、出題問題の内容を正しく理解し、論理的に解答すること。

■ 科目終了試験

問題はテキストの内容やレポート課題に関する中から2問出題する。採点では途中点も加算するので、主な導出過程も必ず記述すること。

『これだけはおさえたい確率統計』 塚田真一著(実教出版)

2015 年度～

科目概要

統計的仮説検定や区間推定について理解し、身のまわりにあるデータを正規検定や t 検定やカイ二乗検定に応用して分析することを目的とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 統計的仮説検定について理解し、実際に平均値の検定(母集団が既知のとき)を計算することができる。
2. 母集団の分散が未知のとき、平均値の検定の計算ができる。
3. 区間推定について理解し、信頼度95%の信頼区間を求めることができる。
4. 分散についての仮説検定ができる。

■ 科目の学習要点事項

1単位目

1. 帰無仮説 $H: \mu = \mu_0$ を、 $|z| = \frac{|\bar{x} - \mu_0|}{\frac{\sigma_0}{\sqrt{n}}} \geq 1.96$ で検定する。
2. 帰無仮説 $H: \mu = \mu_0$ を、 $|t| = \frac{|\bar{x} - \mu_0|}{\frac{s}{\sqrt{n-1}}} \geq t_{0.05}(n-1)$ で検定する。

2単位目

1. 信頼度95%の信頼区間 $\bar{x} - 1.96 \times \frac{\sigma_0}{\sqrt{n}} \leq \mu \leq \bar{x} + 1.96 \times \frac{\sigma_0}{\sqrt{n}}$

$$\bar{x} - t_{0.05}(n-1) \times \frac{s}{\sqrt{n-1}} \leq \mu \leq \bar{x} + t_{0.05}(n-1) \times \frac{s}{\sqrt{n-1}}$$
2. 帰無仮説 $H: \sigma^2 = \sigma_0^2$ を $\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 / \sigma_0^2$ が自由度 $(n-1)$ のカイ二乗分布に従うことを用いて検定する。

参考文献

- 『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会)
 『実践のための基礎統計学』下川敏雄著(講談社)
 『はじめての統計学』鳥居泰彦著(日本経済新聞出版)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成にあたっては、答のみ示すのではなく、その主な計算過程を必ず示すこと。そして、出題問題の内容を正しく理解し、論理的に解答すること。

■科目終了試験

問題はテキストの内容やレポート課題に関する中から1問出題する。採点では途中点も加算するので、主な導出過程も必ず記述すること。

使用テキスト

配本年度

『新訂 微分積分 I』(大日本図書)

2013年度～2019年度

『新 微分積分 I』新井一道 他5名著(大日本図書)

2020年度～

科目概要

数学の基礎として1変数の微分積分学を学習する。関数の極限から微分法の応用、積分法の考え方や計算方法、積分法の応用までを学習する。三角関数、指数関数、対数関数も扱うので、それらを知っているとより学習しやすい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 代表的な関数の性質を理解し、概形を描ける。
2. いろいろな関数の導関数を求めることができる。
3. 導関数を求め、それらを利用して応用することができる。
4. 不定積分や定積分の性質を理解し、実際に計算できる。
5. 定積分を応用し、面積や体積等を求めることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 微分法(関数の極限、微分係数、導関数)
2. 微分法の応用(接線と法線、関数の増減)
3. 積分法(不定積分、定積分、置換積分、部分積分)
4. 積分法の応用(面積、体積、曲線の長さ、広義積分)

参考文献

『大学新入生のための数学入門 増補版』石村園子著(共立出版)

『明解演習微分積分』小寺平治著(共立出版)

『解析概論 改訂第3版』高木貞治著(岩波書店)

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、答のみ示すのではなく、その主な計算過程を必ず示すこと。

■ 科目終了試験

テキストの内容およびレポート課題に類する問題等を3問出題する。採点では途中点も加算するので、主な導出過程も必ず記述すること。

使用テキスト

配本年度

『新 微分積分 I』新井一道 他5名著(大日本図書)

2019 年度～

科目概要

高等学校での数学との関連を重視し、1変数の微分積分学を学習する。関数の極限から微分法の応用、積分法の考え方や計算方法、積分法の応用までを学習する。三角関数、指数関数、対数関数も扱うので、それらを知っているとより学習しやすい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 代表的な関数の性質を理解し、概形を描ける。
2. いろいろな関数の導関数を求めることができる。
3. 導関数を求め、それらを利用して応用することができる。
4. 不定積分や定積分の性質を理解し、実際に計算できる。
5. 定積分を応用し、面積や体積等を求めることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 微分法(関数の極限、微分係数、導関数、合成関数・逆関数の微分法)
2. 微分法の応用(接線と法線の方程式、関数の増減、曲線の凹凸)
3. 積分法(不定積分、定積分、置換積分、部分積分)
4. 積分法の応用(面積、体積、曲線の長さ、広義積分)

参考文献

『大学新入生のための数学入門 増補版』石村園子著(共立出版)

『明解演習微分積分』小寺平治著(共立出版)

『解析概論 改訂第3版』高木貞治著(岩波書店)

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、答のみ示すのではなく、その主な計算過程を必ず示すこと。

■ 科目終了試験評価

テキストの内容およびレポート課題に類する問題等を3問出題する。採点では途中点も加算するので、主な導出過程も必ず記述すること。

使用テキスト

配本年度

『線形代数』宇喜多義昌・小野英夫著(明星大学出版部)

2010年度～2014年度

『新訂 線形代数』新井一道著ほか(大日本図書)

2015年度～2016年度

『新 線形代数』高遠節夫ほか(大日本図書)

2017年度～

科目概要

大学数学の代数系基礎として線形代数を扱う。一般的な行列や行列式の基本的な演算や性質を学習し、それらを方程式の解法、2次曲線の分類や変換などに応用する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ベクトルの演算ができ、性質を理解している。
2. 行列の性質を理解し、行列の演算ができる。
3. 行列式の性質を理解し、行列式を求めることができる。
4. 行列や行列式を応用して、連立方程式を解くことができる。
5. 1次変換や2次形式について理解している。

■ 科目の学習要点事項

1. ベクトルとその演算
2. 行列とその演算
3. 行列式とその応用
4. 1次変換・2次形式

参考文献

『やさしく学べる線形代数』石村園子著(共立出版)

『明解演習線形代数』小寺平治著(共立出版)

『線形代数入門』斎藤正彦著(東京大学出版会)

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、答のみ示すのではなく、その主な計算過程を必ず示すこと。

■ 科目終了試験

テキストの内容およびレポート課題に類する問題等を3問出題する。採点では途中点も加算するので、主な導出過程も必ず記述すること。

使用テキスト

配本年度

『新 線形代数』井川治 他5名著(大日本図書)

2019 年度～

科目概要

大学数学の代数系基礎として線形代数を扱う。一般的な行列や行列式の基本的な演算や性質を学習し、それらを方程式の解法、線形変換、固有値と固有ベクトルに応用する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ベクトルの演算ができ、性質を理解している。
2. 行列の性質を理解し、行列の演算ができる。
3. 行列式の性質を理解し、行列式を求めることができる。
4. 行列や行列式を応用して、連立方程式を解くことができる。
5. 線形変換や固有値と固有ベクトルについて理解している。

■ 科目の学習要点事項

1. ベクトルとその演算
2. 行列とその演算
3. 行列式とその応用
4. 線形変換・固有値と固有ベクトル

参考文献

『やさしく学べる線形代数』石村園子著(共立出版)

『明解演習線形代数』小寺平治著(共立出版)

『線形代数入門』斎藤正彦著(東京大学出版会)

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、答のみ示すのではなく、その主な計算過程を必ず示すこと。

■ 科目終了試験評価

テキストの内容およびレポート課題に類する問題等を3問出題する。採点では途中点も加算するので、主な導出過程も必ず記述すること。

使用テキスト

配本年度

『生物科学入門 三訂版』石川 統著(裳華房)

2010 年度～

科目概要

近年、生物学のカバーする領域は多様性を拡大し、その内容の深化も著しい。本科目の目指す所は二つある。第一に、日々の生活にも資する各領域のコアとなる知見の現状を理解する。第二に、生物学の今後の発展を正しく位置づける力を養成するために、生物学諸領域の体系についても学ぶ。限られた数のレポート課題でこれを達成することは困難であり科目終了試験も目標達成の手だてである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. テキストを精読して内容の理解に努める。
2. 学術用語の意味を理解し、正しく使う。
3. 日頃から生物学に関連する疑問点、不明点を意識する。
4. 参考資料を調査し、自らの課題を解決する。
5. レポート課題の内容を吟味し、レポートを作成する。

■ 科目の学習要点事項

1. 地球の歴史と生物の歴史
2. 生物の基本単位
3. 生物を構成する組織
4. 生物に見られる代謝
5. 細胞分裂

参考文献

- 『ダイナミックワイド 図説生物 総合版』(東京書籍)
『ワークブックで学ぶ 生物学の基礎』(オーム社)
『アメリカ版 大学生物学の教科書 第1～3巻』(講談社)
『キャンベル生物学』(丸善)
『理系総合のための生命科学 第3版』(羊土社)

評価基準

■ レポート評価

教科書を精読の上で参考書などの情報を加味して課題について論述すること。必ず自らが十分に咀嚼した内容を、主語と述語の関係や起承転結に留意してまとめること。また、人に読ませることを意識して丁寧な文字を心がけること。

近年、ネット上の記載を精査することもなく流用してレポートとする例が散見される。こうした行為はマナー違反であるだけでなく、内容に誤りが含まれることも多い。余人の記述と酷似したレポートなどは評価の対象としないので注意すること。

■科目終了試験評価

総合的に理解度を測ることを目的として、各単位に設定されているレポート課題の領域に限らず、学習要点事項の範囲から科目終了試験を実施する。単元毎の「まとめの問題」を参考にして、テキストを十分に理解しておくこと。

使用テキスト

配本年度

『生物科学入門 三訂版』石川 統著(裳華房)

2019 年度～

科目概要

近年、生物学のカバーする領域は多様性を拡大し、その内容の深化も著しい。本科目の目指す所は二つある。第一に、日々の生活にも資する各領域のコアとなる知見の現状を理解する。第二に、生物学の今後の発展を正しく位置づける力を養成するために、生物学諸領域の体系についても学ぶ。限られた数のレポート課題でこれを達成することは困難であり科目終了試験も目標達成の手だてである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. テキストを精読して内容の理解に努める。
2. 学術用語の意味を理解し、正しく使う。
3. 日頃から生物学に関連する疑問点、不明点を意識する。
4. 参考資料を調査し、自らの課題を解決する。
5. レポート課題の内容を吟味し、レポートを作成する。

■ 科目の学習要点事項

1. 地球の歴史と生物の歴史
2. 生物の基本単位
3. 生物を構成する組織
4. 生物に見られる代謝
5. 細胞分裂

参考文献

- 『ダイナミックワイド 図説生物 総合版』(東京書籍)
『ワークブックで学ぶ 生物学の基礎』(オーム社)
『アメリカ版 大学生物学の教科書 第1～3巻』(講談社)
『キャンベル生物学』(丸善)
『理系総合のための生命科学 第3版』(羊土社)

評価基準

■ レポート評価

教科書を精読の上で参考書などの情報を加味して課題について論述すること。必ず自らが十分に咀嚼した内容を、主語と述語の関係や起承転結に留意してまとめること。また、人に読ませることを意識して丁寧な文字を心がけること。

近年、ネット上の記載を精査することもなく流用してレポートとする例が散見される。こうした行為はマナー違反であるだけでなく、内容に誤りが含まれることも多い。余人の記述と酷似したレポートなどは評価の対象としないので注意すること。

■科目終了試験評価

総合的に理解度を測ることを目的として、各単位に設定されているレポート課題の領域に限らず、学習要点事項の範囲から科目終了試験を実施する。単元毎の「まとめの問題」を参考にして、テキストを十分に理解しておくこと。

使用テキスト

配本年度

『生物科学入門 三訂版』石川 統著(裳華房)

2010 年度～

科目概要

近年、生物学のカバーする領域は多様性を拡大し、その内容の深化も著しい。本科目の目指す所は二つある。第一に、日々の生活にも資する各領域のコアとなる知見の現状を理解する。第二に、生物学の今後の発展を正しく位置づける力を養成するために、生物学諸領域の体系についても学ぶ。限られた数のレポート課題でこれを達成することは困難であり科目終了試験も目標達成の手だてである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. テキストを精読して内容の理解に努める。
2. 学術用語の意味を理解し、正しく使う。
3. 日頃から生物学に関連する疑問点、不明点を意識する。
4. 参考資料を調査し、自らの課題を解決する。
5. レポート課題の内容を吟味し、レポートを作成する。

■ 科目の学習要点事項

1. 生殖
2. 遺伝という現象
3. 遺伝子の実体とはたらき
4. 生物にとっての環境

参考文献

『ダイナミックワイド 図説生物 総合版』(東京書籍)
『ワークブックで学ぶ 生物学の基礎』(オーム社)
『アメリカ版 大学生物学の教科書 第1～3巻』(講談社)
『キャンベル生物学』(丸善)
『理系総合のための生命科学 第3版』(羊土社)

評価基準

■ レポート評価

教科書を精読の上で参考書などの情報を加味して課題について論述すること。必ず自らが十分に咀嚼した内容を、主語と述語の関係や起承転結に留意してまとめること。また、人に読ませることを意識して丁寧な文字を心がけること。

近年、ネット上の記載を精査することもなく流用してレポートとする例が散見される。こうした行為はマナー違反であるだけでなく、内容に誤りが含まれることも多い。余人の記述と酷似したレポートなどは評価の対象としないので注意すること。

■科目終了試験評価

総合的に理解度を測ることを目的として、各単位に設定されているレポート課題の領域に限らず、学習要点事項の範囲から科目終了試験を実施する。単元毎の「まとめの問題」を参考にして、テキストを十分に理解しておくこと。

使用テキスト

配本年度

『生物科学入門 三訂版』石川 統著(裳華房)

2019 年度～

科目概要

近年、生物学のカバーする領域は多様性を拡大し、その内容の深化も著しい。本科目の目指す所は二つある。第一に、日々の生活にも資する各領域のコアとなる知見の現状を理解する。第二に、生物学の今後の発展を正しく位置づける力を養成するために、生物学諸領域の体系についても学ぶ。限られた数のレポート課題でこれを達成することは困難であり科目終了試験も目標達成の手だてである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. テキストを精読して内容の理解に努める。
2. 学術用語の意味を理解し、正しく使う。
3. 日頃から生物学に関連する疑問点、不明点を意識する。
4. 参考資料を調査し、自らの課題を解決する。
5. レポート課題の内容を吟味し、レポートを作成する。

■ 科目の学習要点事項

1. 生殖
2. 遺伝という現象
3. 遺伝子の実体とはたらき
4. 生物にとっての環境

参考文献

『ダイナミックワイド 図説生物 総合版』(東京書籍)
『ワークブックで学ぶ 生物学の基礎』(オーム社)
『アメリカ版 大学生物学の教科書 第1～3巻』(講談社)
『キャンベル生物学』(丸善)
『理系総合のための生命科学 第3版』(羊土社)

評価基準

■ レポート評価

教科書を精読の上で参考書などの情報を加味して課題について論述すること。必ず自らが十分に咀嚼した内容を、主語と述語の関係や起承転結に留意してまとめること。また、人に読ませることを意識して丁寧な文字を心がけること。

近年、ネット上の記載を精査することもなく流用してレポートとする例が散見される。こうした行為はマナー違反であるだけでなく、内容に誤りが含まれることも多い。余人の記述と酷似したレポートなどは評価の対象としないので注意すること。

■科目終了試験評価

総合的に理解度を測ることを目的として、各単位に設定されているレポート課題の領域に限らず、学習要点事項の範囲から科目終了試験を実施する。単元毎の「まとめの問題」を参考にして、テキストを十分に理解しておくこと。